I-O DATA

LA-ISAシリーズ

取扱説明書

E-03A

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ･オー･データ機器の著作物です。
   したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、株式会社アイ･オー･データ機器 PLANTコールセンターまでご連絡ください。
4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
5) 本製品は「外国為替及び外国貿易管理法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当します。
   したがって、国外に持ち出す場合には、必ず日本国政府の輸出許可申請など必要な手続きをお取りください。
6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、1部だけ複写できるものとします。
   （ただし5ボードセット品については、5ユーザーまでの使用が可能です。）
7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is only suitable for use in Japan. We shall have no liability for any damages arising from the use or inability to use this product in other countries. We neither provide any technical support and/or after-service for the use of this product abroad.)

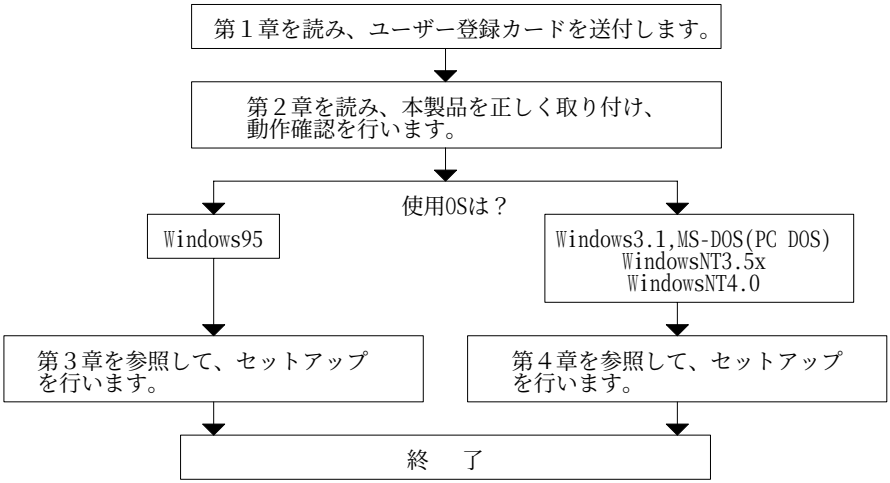
- Microsoft,Windows,WindowsNT,MS,MS-DOSは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
- Ethernetは、米国 Xerox Corporationの登録商標です。
- NetWareは、米国 Novell,Inc.の登録商標です。
- ArtisoftとLANtasticは、米国 Artisoft,Inc.の登録商標です。
- その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

このたびは、DOS/Vマシン用LANアダプタボード LA-ISAシリーズをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

本書をご覧になるにあたって

・ 本書の見方

以下のフローに沿って、必要な箇所をお読みください。



• 呼び方

呼び方	意 味
LA-ISAシリーズ	LA2/T-ISA及びLA/T-ISA
「ネットワークOS」または「NOS」	Network Operating System
Windows95	Microsoft® Windows®95 Operating System
WindowsNT4.0	Microsoft® WindowsNT™ Operating System Version4.0
WindowsNT3.5x	Microsoft® WindowsNT™ Operating System Version3.5及びVersion3.51
Windows3.1	Microsoft® Windows® Operating System Version3.1
Windows	Windows95,WindowsNT4.0,WindowsNT3.5x及びWindows3.1の総称
PnP	プラグ＆プレイ

• ハードウェア構成

本書では以下のような構成を想定して説明しています。構成の相違点を確認しながら読み進めてください。

《ドライブ構成》

A：フロッピィディスク装置3.5インチ(1.44MB/720KB)
C：ハードディスク装置
使用するOSがインストール済みで起動可能
D：CD-ROMドライブ装置

はじめに i
目次 iii

第1章 ご使用になる前に……1
1.1 特徴 1
1.2 箱を開けたら 2
1.3 動作環境 5
1.4 取り扱い及び使用上の注意 6
1.5 実行用ディスクの作り方 7

第2章 取り付け方法……8
2.1 各部の名称 8
2.2 LEDインジケータ 9
2.3 取り付け方法 10
2.3.1 取り付け前に 10
2.3.2 取り付け 11
2.4 動作確認 13

第3章 日本語Windows95で使用するには ……19
3.1 「ﾌﾟﾗｸﾞ&ﾌﾟﾚｲ」モードでのインストール 20
3.2 「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」モードでのインストール 23
3.3 インストール後の確認 26
3.4 ピア・ツー・ピア接続の設定 28
3.4.1 ファイルとプリンタの共有 28
3.4.2 メールの設定 40
3.5 各種ネットワークシステムへの接続 57
3.5.1 NetWareサーバへの接続 58
3.5.2 WindowsNTサーバへの接続 62
3.5.3 LANtastic for Windows95へのセットアップ 65

第4章 他のOSで使用するには……66

4.1 日本語Windows3.1及びMS-DOSへのセットアップ..... 66
4.1.1 NetWare 3.12J/4.1J/4.11Jへのｾｯﾄｱｯﾌﾟ..... 66
● サーバの設定..... 66
● クライアントの設定..... 70
4.1.2 Microsoft LAN Manager V2.1xへのセットアップ..... 73
4.1.3 Personal NetWare J1.0へのセットアップ..... 74
4.1.4 LANtastic 6.0へのセットアップ..... 74
4.2 日本語WindowsNT3.5xへのセットアップ..... 75
4.3 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ..... 77

付録1 困った時には……82

● 自己診断中のトラブル..... 82
● Windows95上でのトラブル..... 84

付録2 ネットワークの仕様及び接続方法……87

付録3 用語解説……90

付録4 仕様……94

付4.1 パソコン環境を確認しましょう..... 94
付4.2 ハードウェア仕様..... 97

PLANTコールセンターへのお問い合わせ..... 98
サポートソフトのバージョンアップ..... 99
修理について..... 100

第1章 ご使用になる前に

この章では、LA-ISAシリーズをご使用になる上で必要となる事項を説明しますので、最初に必ずお読みください。

1.1 特徴

●Ethernet IEEE 802.3に準拠しています。

●「プラグ＆プレイ」に対応した16bitLANボードです。

●ACCTON社のMPX2（Multi Packet Accelerator 2）テクノロジーによって環境設定やデータのスループットなどに高いパフォーマンスが得られます。

●フル・デュプレクス機能に対応しています。
フル・デュプレクス機能に対応しているスイッチングハブなどと組み合わせることにより同時にデータの送受信が行え、より高いパフォーマンス（理論値:2倍[環境によって異なります。]）が得られます。

●ネットワーク状態の監視用LEDインジケータが装備されています。

●RJ-45[10BASE-T]（LA2/T-ISAの場合はBNC[10BASE2]も使用可能です。）が使用できます。

●ソフトウェアで環境設定を行うスイッチレス設計です。

●Novell NetWare,Windows95,WindowsNT3.5x/4.0に対応しています。

1.2 箱を開けたら

• 同梱構成品

・スタンダードセット

No.	内容物	個数	備考
1	LANアダプタボード	1枚	LA/T-ISAまたはLA2/T-ISA
2	サポートソフトウェアディスク	2枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
3	取扱説明書	1冊	本書
4	SERVER II for DOS/V	1枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
5	SERVER II for DOS/V取扱説明書	1冊	
6	Verシール	2枚	
7	ハードウェア保証書	1枚	
8	ハードウェアシリアルNo.シール	1枚	
9	ユーザー登録カード	1個	本書巻末
10	BNC T型コネクタ	1冊	LA2/T-ISAのみ添付

・5ボードセット

No.	内容物	個数	備考
1	「はじめにお読みください」	1枚	差し込み
2	LANアダプタボード	5枚	LA/T-ISA
3	サポートソフトウェアディスク	2枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
4	取扱説明書	1冊	本書
5	SERVER II for DOS/V	1枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
6	SERVER II for DOS/V取扱説明書	1冊	
7	Verシール	2枚	
8	ハードウェア保証書	5枚	
9	ハードウェアシリアルNo.シール	5枚	
10	ユーザー登録カード	1枚	本書巻末
11	ユーザー登録カード返送用封筒	1枚	

・LANtasticセット

No.	内容物	個数	備考
1	「LANtasticについて」	1枚	差し込み
2	LANアダプタボード	1枚	LA/T-ISA
3	LANtastic	1式	3.5インチ2DD 7枚 (720KB) マニュアル4冊
4	サポートソフトウェアディスク	2枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
5	取扱説明書	1冊	本書
6	WinKit II	2枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
7	WinKit II 取扱説明書	1冊	
8	SERVER II　for DOS/V	1枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
9	SERVER II　for DOS/V取扱説明書	1冊	
10	Verシール	3枚	
11	ハードウェア保証書	1枚	
12	ハードウェアシリアルNo.シール	1枚	
13	ユーザー登録カード	1枚	本書巻末

・LANtastic for Windows95セット

No.	内容物	個数	備考
1	「LANtasticについて」	1枚	差し込み
2	LANアダプタボード	1枚	LA/T-ISA
3	LANtastic for Windows95	1式	3.5インチ2HD(1.44MB).....2枚 マニュアル.....1冊 インストール前の注意.....1冊 TECHNICAL SUPPORT SERVICES.....1枚 ユーザー登録カード
4	サポートソフトウェアディスク	2枚	3.5インチ2HD (1.44MB)
5	取扱説明書	1冊	本書
6	Verシール	1枚	
7	ハードウェア保証書	1枚	
8	ハードウェアシリアルNo.シール	1枚	
9	ユーザー登録カード	1枚	本書巻末

万が一、不足品がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。

お願い：箱・梱包材は大切に保管し、修理などで輸送の際にご使用ください。

• ユーザー登録カードのご返送

1).添付のVerシールを、ユーザー登録カード、サポートソフトウェアディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。

2). ユーザー登録カードに添付のハードウェアシリアルNo.シールを貼り、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。



注 意

1)弊社では、PLANTコールセンターでの質問受け付けやソフトウェアのバージョンアップサービスなどを行っていますが、これらのサービスはユーザー登録カードをご返送くださった方のみが対象となります。
お買い上げいただいた製品ごとに必ずご返送ください。
2)必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できませんので、必ずご確認ください。

1.3 動作環境

ご使用の機種や環境を再度ご確認ください。

• パソコン本体の機種

・CPU 386SX以上の16bitのISA-Busを搭載したPC/AT機及び互換機※

※　弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っています。

• OS環境

日本語Windows95
日本語WindowsNT3.5x/4.0
日本語Windows3.1
MS-DOS(PC DOS)Ver.5.0以上

• 対応NOS環境

クライアント

日本語Windows95
日本語WindowsNT3.5x/4.0
NetWare 3.12J/4.1J/4.11J
Microsoft LAN Manager V2.1xJ

ピア・ツー・ピア型

日本語Windows95
日本語WindowsNT3.5x/4.0
Personal NetWare J1.0
LANtastic for Windows95
LANtastic 6.0

ネットワークプロトコル

packet driver for FTP TCP/IP
ODI4.0/NDIS2.x,3.x

1.4 取り扱い及び使用上の注意

・ 本製品の取り付けや取り外しは、必ずパソコン本体及び周辺機器の電源を切り、コンセントを外してから行ってください。故障の原因になることがあります。

・ 本製品は精密機器です。落としたり衝撃を加えないよう、丁寧に取り扱ってください。

・ 本製品に対し、以下のことを行わないでください。火災・感電・動作不良の原因になります。
・分解や改造などをしないでください。
・濡れた手などで本製品を取り扱わないでください。

・ 保証について
保証期間
・保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有料修理となります。
また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。
・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。
保証範囲
次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。
・本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

1.5 実行用ディスクの作り方

本製品に添付されているサポートソフトウェアディスク（以下サポートディスク）は必ずバックアップを取り、バックアップディスクの方を実行用ディスクとしてご使用ください。
ここでは、実行用ディスクの作り方を説明します。

1 「・ 同梱構成品」(P2)に含まれるすべての枚数分のフォーマット済みの空きフロッピィディスク(3.5インチ2HDまたは2DD)を用意します。

2 サポートディスクを書き込み禁止にします。

3 **Windows95の場合**は、『ﾏｲ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』の「3.5ｲﾝﾁ FD(A:)」を右クリックし「ﾃﾞｨｽｸのｺﾋﾟｰ」を選択します。

Windows95の例)



MS-DOS（PC DOS,Windows3.1）の場合は、MS-DOSのコマンド入力状態で DISKCOPY コマンドを実行します。

MS-DOSの例)

```
C:\>diskcopy a: a:・
```

（下線部入力）

4 サポートディスクと空きフロッピィディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップを取ります。

注 意

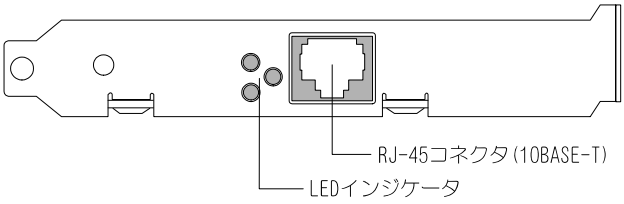
サポートディスクを破損した場合の修理は有償です。
必ずバックアップを取り、サポートディスクは大切に保管してください。

第2章 取り付け方法

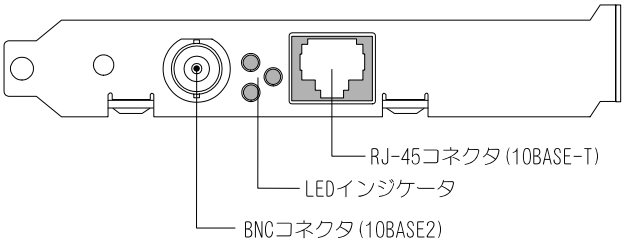
LA-ISAシリーズは、ISAバス仕様の拡張スロットに装着することができます。
この章では、パソコンにLA-ISAシリーズをセットアップする方法を説明します。

2.1 各部の名称

LA/T-ISA

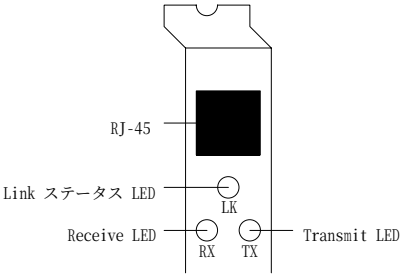


LA2/T-ISA



2.2 LEDインジケータ

LEDインジケータ



● **Link ステータス LEDインジケータ**

Link(LK)ステータス LEDインジケータは、10BESE-Tでデータリンクが有効になると点灯します。

このLEDはLA-ISAシリーズが通常の動作状態の時、常に点灯しています(緑色)。そうでなければRJ-45の接続をチェックしてください。

注 意

このLEDは、BNC接続のステータスには反応しません。ネット回線の接続タイプをチェックする場合は、lasetup.exeの「LANアダプタの自己診断及び設定」を使用してください。(「2.4 動作確認」(P13)参照)

● **Transmit LEDインジケータ**

Transmit(Tx)LEDインジケータは、データの送信状態を示します。
緑色の点滅(点灯)状態は、ネットワークの利用状況を示しています。

● **Receive LEDインジケータ**

Receive(Rx)LEDインジケータは、データの受信状態を示します。
緑色の点滅(点灯)状態は、ネットワークの利用状況を示しています。

2.3 取り付け方法

2.3.1 取り付け前に

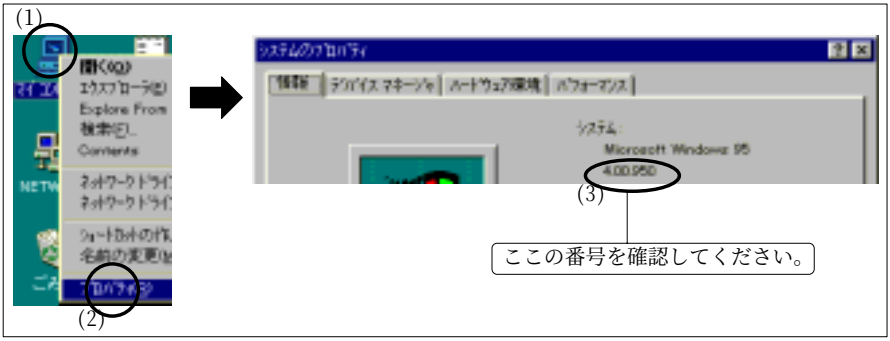
● Windows95を使用している場合

Windows95を使用している場合、Windows95のバージョン（4.00.950、4.00.950a、4.00.950 B）によってインストール手順の一部が異なる場合があります。LA-ISAシリーズを取り付ける前に、まず以下の確認方法でWindows95のバージョンを確認し、メモなどに書き留めておいてください。

確認後、一旦Windows95を終了し、パソコンの電源を切って次ページの「2.3.2 取り付け」を参照してLA-ISAシリーズをパソコンに取り付けてください。

＜確認方法＞

「ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」にマウスカーソルを合わせてマウスの右ボタンを押し(1)、現れたメニューから「ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」を選択します(2)。「ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」に表示される番号を確認してください(3)。



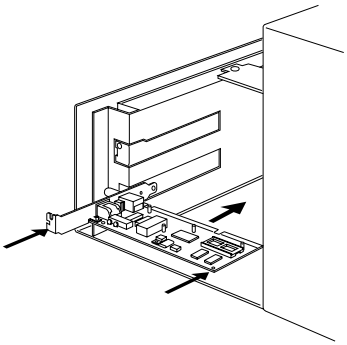
2.3.2 取り付け

1 パソコンの電源スイッチを切り、周辺機器に接続されているケーブルを全て取り外します。

2 パソコンのカバーを取り外します。取り外し方については、パソコンの取扱説明書を参照して下さい。

3 空いているISA用の拡張スロットカバーを取り外してください。

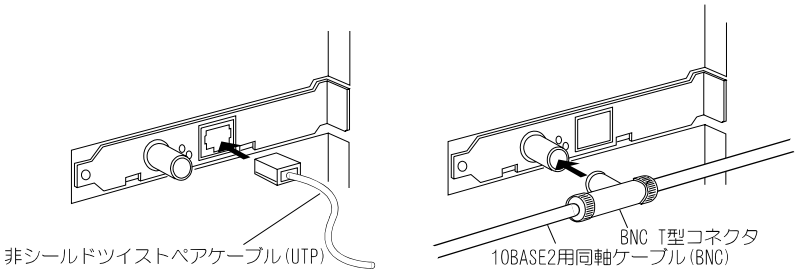
4 ISAの拡張スロットにLA-ISAシリーズを取り付けます。
LA-ISAシリーズが拡張スロットに適切に装着されることを確認しながら押し込みます。



5 ISAの拡張スロットにLA-ISAシリーズが確実に固定されるように、スロットカバー用のネジを取り付けます。

6 **1**や**2**で取り外した、パソコンのカバーと全ての周辺機器やケーブルを元に戻します。

7 **LA-ISAシリーズをネットワークに接続します。（10BASE-T用 非シールドツイストペアケーブルまたは10BASE2用 同軸ケーブルのどちらか一方を接続してください。）**



2.4 動作確認

LA-ISAシリーズの動作確認を行います。
動作確認は、MS-DOS上で動作する lasetup.exeで行います。lasetup.exeはLANアダプタボードの自己診断による動作確認を行います。


特に注意

動作確認を行う場合は、config.sysやautoexec.batに各種ネットワークドライバ（NetWare,MS LAN Manager,LANtastic等）を組み込まない状態でテストを行ってください。
組み込まれたまま動作確認を行うと、パソコンがハングアップしたり、
EEPROMの内容が破壊されたりして正常に動作しなくなる場合があります。
EEPROM等の修理は、有償修理となりますのでご注意ください。

診断及び設定の終了後、NetWareクライアントにLA-ISAシリーズの設定を反映させる事ができます。画面の指示に従って作業を進めてください。ただし、設定の反映はNetWareクライアントをインストールした後に行ってください。インストールしていない場合は、「終了」を選んでください。

1 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、ハードディスクからMS-DOSを起動します。
（Windows95を使用している場合は、Windows95の起動時（Starting Windows95...の表示中）に[F8]キーを押し、「Microsoft Windows95 Startup Menu」が表示されたら「Command prompt only」を選択してDOSプロンプトを起動してください。）


参 考

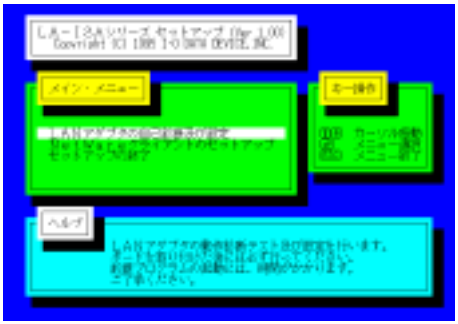
メモリマネージャやその他のデバイスドライバと競合する場合は、「Command prompt only」を選択する前に[SHIFT]+[F8]キーでStep-by-step confirmationモードを「Y」に切り替えてから起動してください。途中、競合するドライバを組み込まないように選択しながら、
DOSプロンプトを起動してください。(日本語環境は必ず組み込んでください。)

2 **フロッピィディスクドライブに添付の「LA-ISAシリーズサポートソフト」ディスクをセットし、以下のようにセットアッププログラムを起動します。**

書式　［フロッピィディスクのドライブ名］:\lasetup

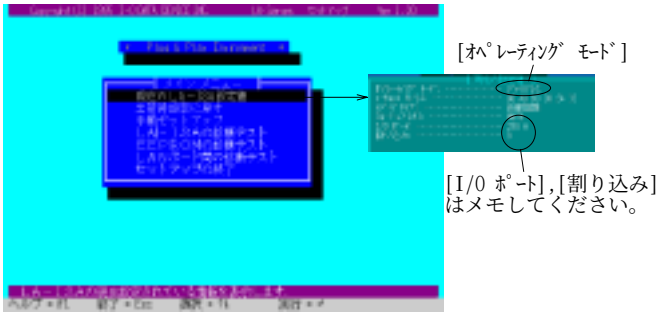
例) **C:\>a:\lasetup・**　　**（下線部入力）**

セットアップ画面が表示されたら「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」を選択してください。



3 **まず、「現在のＬＡ－ＩＳＡ設定値」を選択してLA-ISAシリーズの設定値を確認します。**

「I/O ﾎﾟｰﾄ」や「割り込み」等が他の周辺機器と重複する場合は、「手動セットアップ」で重複する設定を変更するか、いったんセットアッププログラムを終了して、MS-DOSコマンド入力状態へ戻ります。電源を切り、重複している周辺機器の設定を変更してください。



注 意

WindowsでLA-ISAシリーズを使用する場合は、設定した「I/O ﾎﾟｰﾄ」,「割り込み」をWindows上でのLA-ISAシリーズの設定と一致させる必要があります。「I/Oポート」及び「割り込み」の設定値は、メモなどに書き留めておいてください。

4 LA-ISAシリーズの設定値を変更する場合は、「メイン メニュー」から「手動セットアップ」を選択してください。オペレーティング モードを「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」に設定し、パソコン環境、ネットワーク環境に応じて各項目を設定変更してください。



ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ ﾓｰﾄﾞ	(ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ、ﾌﾟﾗｸﾞ & ﾌﾟﾚｲ)
ﾒﾃﾞｨｱ ﾀｲﾌﾟ	(自動認識、10Base-T,リンク テスト無効)
ﾌﾙ･ﾃﾞｭﾌﾟﾚｸｽ	(無効、有効)
I/O ポート	(200h～3E0h)
割り込み	(2～15)

●オペレーティング モード

表示された「手動セットアップ」メニューは、オペレーティング モード（「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」または「ﾌﾟﾗｸﾞ&ﾌﾟﾚｲ」）によって変化します。
パソコンが「PnP」に対応していないか、または「PnP」に対応していない周辺機器と併用する場合は、オペレーティング モードを「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」に設定してください。

●メディア タイプ

トランシーバの設定は、使用しているLA-ISAシリーズのタイプに依存します。
それは、ネットワーク回線タイプに従う必要があります。
通常はシステムに回線タイプを自動認識させるための「自動認識」を選択してください。
（出荷時設定は「自動認識」）

●フル･デュプレクス

接続しているサーバや全ての相互連結のデバイス(例えば、スイッチングハブ)がこのモードに対応している場合、フル･デュプレクスを可能に設定してください。（データ送受信が同時に行えるため理論値:2倍の高速転送を実現します）

●I/O ポート

表示されたリスト(200h～3E0h)からの利用できるベースアドレスを20h単位で選択します。（出荷時設定は、300hです。）

選択したアドレスをベースに、アドレスの32バイトが使用されます。

（出荷時設定の場合、300h～31Fh）

●割り込み

利用できるハードウェアの割り込みを、表示されたリスト(2～15)から選択してください。

LA-ISAシリーズのデフォルト割り込み設定は、IRQ 3です。

各項目が他の周辺機器の環境と競合していないか確認してください。



注 意

「I/O ポート」、「割り込み」がパソコン本体や他の拡張ボードと重複しているとパソコン本体が起動できなくなる場合があります。重複しないように設定してください。

5 **設定したLA-ISAシリーズの環境を更新してください。**

6 **必要に応じて自己診断プログラムでLA-ISAシリーズをテストしてください。**

LA-ISAシリーズのセットアップ状況をテストするためには、「メイン メニュー」から「ＬＡ－ＩＳＡの診断テスト」または「ＥＥＰＲＯＭの診断テスト」を選択してください。

「LA-ISAの診断テスト」の場合

このテストは、LA-ISAシリーズと対応して回線システムを監視します。
（このテストでは、ネットワーク上のLA-ISAシリーズ間テストは行いません。）
画面には、各々のテストの「正常」または「異常」のカウント数を表示します。テストが異常の場合は、スペースキーを押すことによって対応可能なメッセージを表示します。
LA-ISAシリーズのテストは、次の項目をチェックします。（「ESC」キーで中止するまでチェックを続けます。「正常」のカウンタが5000を示すまでの間、「異常」がカウントされないことを確認すれば良いでしょう。）

・「装置構成　テスト」.....LA-ISAシリーズの初期状態チェック。
・「I/O　レジスタ　テスト」.....I/Oポートアクセスのチェック。
・「内部　ループバック　テスト」.....LA-ISAシリーズのコントローラのチェック。
・「外部　ループバック　テスト」.....ネットワークリンクをチェック。
・「RAM　テスト」.....ボードの側のRAM状態をチェック。


注 意

トラブルが持続するならば、LAN間接続（ケーブル、ハブなど）が確実に接続されていることを確認し、トラブルを確定するためにパソコンを再起動して再び「LA-ISAの診断テスト」を動かしてください。

「EEPROMの診断テスト」の場合

LA-ISAシリーズのボード上EEPROMの診断テスト（各レジスタのリード/ライト）を動作させ、異常のないことを確認してください。


特に注意

このテスト中に再起動、リセット、電源OFFなどを行うとEEPROMの内容が破壊され、正常に動作しなくなります。この場合は有償修理となりますのでご注意ください。

7 **必要に応じてネットワークに対する診断を行ってください。**

ネットワークが接続されている環境で、装着後のLA-ISAシリーズの能力を確かめるために、メインメニューから「LA-ISA間の診断テスト」を選択してください。少なくとも1台のパソコンに送信側（イニシェータ発信準備）を、少なくとも別のもう1台のパソコンに受信側（レスポンダ受信準備）をセットアップしてください。このテストは、ネットワークのデータ送受信をテストします。

ただし、送信側、受信側ともLA-ISAシリーズを使用する必要があります。

レスポンダは、ネットワークの各々のイニシェータで通信のステータスを表示し、イニシェータは、現在のレスポンダと対応する通信のステータスを表示します。



注 意

すでに存在しているネットワーク環境に接続してテストを行う場合は、事前にネットワークシステム管理者にご相談ください。

第3章 日本語Windows95で使用するには

この章では、第2章で取り付けたLA-ISAシリーズをWindows95で使用する方法を説明します。

LA-ISAシリーズをWindows95で使用するには、LA-ISAシリーズのWindows95用のドライバのインストール及びネットワークの設定が必要です。ただし、LA-ISAシリーズの「ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ ﾓｰﾄﾞ」が「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」か「ﾌﾟﾗｸﾞ&ﾌﾟﾚｲ」によって、Windows95へのインストール手順が異なります。

（「ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ ﾓｰﾄﾞ」の確認方法は、「2.4 動作確認」での「ＬＡＮアダプタの自己診断及び設定」の手順3(P14)での「現在のＬＡ－ＩＳＡ設定値」を選択すれば確認できます。）



注 意

インストールの前には必ず「2.4 動作確認」(P13)を参照して動作確認を行って診断テストが正常なのを確認してください。

1.「ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ ﾓｰﾄﾞ」が「ﾌﾟﾗｸﾞ&ﾌﾟﾚｲ」の場合

次ページの「3.1 「ﾌﾟﾗｸﾞ&ﾌﾟﾚｲ」モードでのインストール」を参照してください。

2.「ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞ ﾓｰﾄﾞ」が「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」の場合

「3.2 「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」モードでのインストール」23ページを参照してくださ い。

3.1 「ﾌﾟﾗｸﾞ&ﾌﾟﾚｲ」モードでのインストール

Windows95のバージョンによってインストール手順が異なります。「● Windows95を使用している場合」(P10)で確認してください。

注 意

Windows95のバージョンの確認は、LA-ISAシリーズをパソコンに取り付ける前に行ってください。

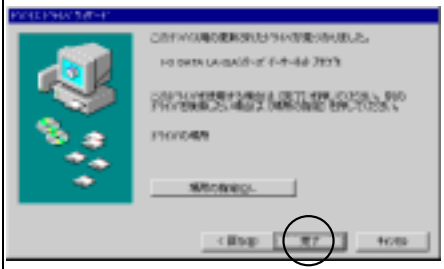
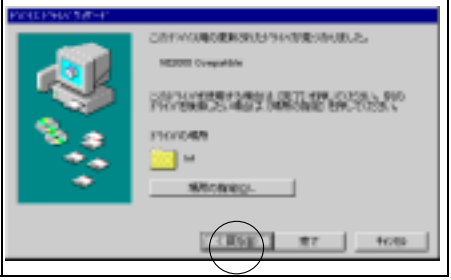
＜Windows95のバージョンが4.00.950または4.00.950aの場合＞

以下の各手順での「Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合」の欄をご覧ください。

＜Windows95のバージョンが4.00.950 Bの場合＞

以下の各手順での「Windows95 4.00.950 Bの場合」の欄をご覧ください。

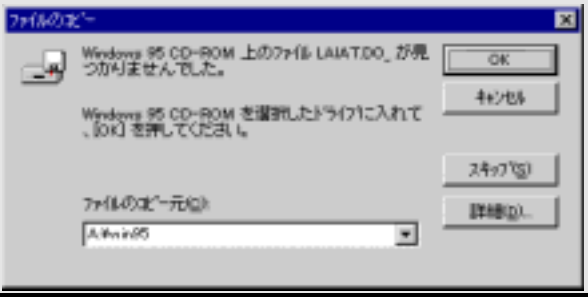
Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合	Windows95 4.00.950 Bの場合
1 パソコン及び周辺機器の電源を入れ、Windows95を起動します。	
2 しばらくすると、Windows95がLA-ISAシリーズを検出し、『新しいﾊｰﾄﾞｳｪｱ』画面が表示されます。[ﾊｰﾄﾞｳｪｱの製造元が提供するﾄﾞﾗｲﾊﾞ]を選び、[OK]ボタンをクリックします。 	2 しばらくすると、Windows95がLA-ISAシリーズを検出し、『ﾃﾞﾊﾞｲｽﾄﾞﾗｲﾊﾞｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。「LA-ISAシリーズ サポートソフト」ディスクをフロッピィドライブに挿入し、[次へ>]ボタンをクリックします。 

Windows95 4.00.950/4.00.950aの場合	Windows95 4.00.950 Bの場合
3 「LA-ISAシリーズ サポートソフト」ディスクをフロッピィドライブに挿入します。[配布ﾌｧｲﾙのｺﾋﾟｰ元]にはフロッピィディスクドライブの\win95フォルダを指定し、[OK]ボタンをクリックします。  例　A:\win95（フロッピィディスクドライブがAドライブの場合） [I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ]を選び、[OK]ボタンをクリックします。インストールが開始されます。 	3 『このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄｱﾀﾞﾌﾟﾀ』のメッセージ画面が表示されますので、[完了]ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。  「LA-ISAシリーズ サポートソフト」ディスクをフロッピィドライブに挿入していなかった場合は、上記画面が表示されず、『このデバイス用の更新されたドライバが見つかりました。NE2000 Compatible』画面が表示されます。「LA-ISAシリーズ サポートソフト」ディスクをフロッピィドライブに挿入し[戻る]ボタンで手順2からもう一度やり直してください。 

注 意

途中でWindows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）
と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）

上記のCD-ROM等からのファイルコピーの途中で
「....のファイル　LAIAT.DO_　のファイルが見つかりませんでした。」
とエラー表示された場合は、以下の例のフロッピィドライブのwin95のパス指定を行い、[OK]ボタンをクリックしてください。
例）A:\win95（下線部入力:フロッピィドライブがAドライブの場合）

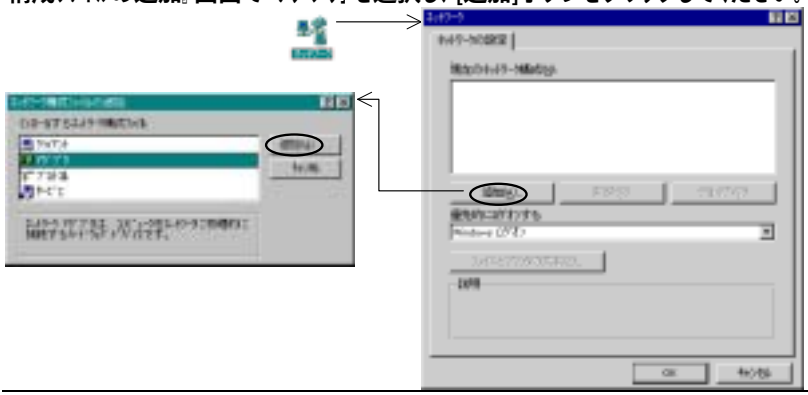


4 **インストールを終了し、Windows95が起動した後、必ず一旦Windows95を再起動してください。**

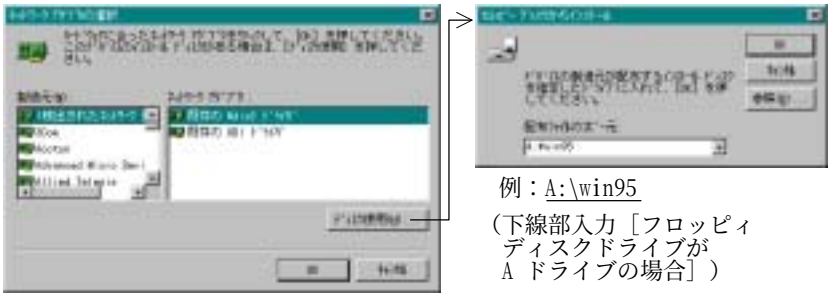
以上でインストールは終了です。次に、正常にインストールされたかの確認を行ってください。（[3.3 インストール後の確認] (P26)参照）

3.2 「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」モードでのインストール

1 Windows95起動後、『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ　ﾊﾟﾈﾙ』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックし、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[追加]ボタンをクリックしてください。次に、『ﾈｯﾄﾜｰｸ構成ﾌｧｲﾙの追加』画面で「ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択し、[追加]ボタンをクリックしてください。



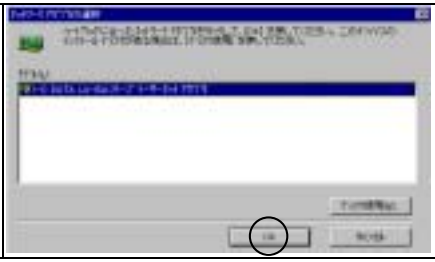
2 「LA-ISAシリーズ　サポートソフト」ディスクをフロッピィドライブに挿入します。『ﾈｯﾄﾜｰｸ　ｱﾀﾞﾌﾟﾀの選択』画面で[ﾃﾞｨｽｸ使用]をクリックし、『ﾌﾛｯﾋﾟｰ　ﾃﾞｨｽｸからｲﾝｽﾄｰﾙ』画面の「配布ﾌｧｲﾙのｺﾋﾟｰ元」にフロッピィディスクドライブのwin95フォルダのパス指定（例：A:\win95）を行います。指定後、[OK]ボタンをクリックします。



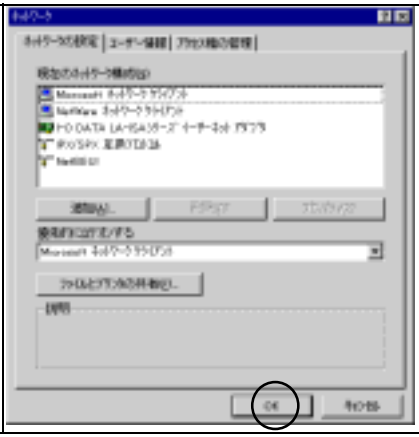
例：A:\win95

（下線部入力［フロッピィディスクドライブがA ドライブの場合］）

3 『ﾈｯﾄﾜｰｸ ｱﾀﾞﾌﾟﾀの選択』画面で「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」と表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



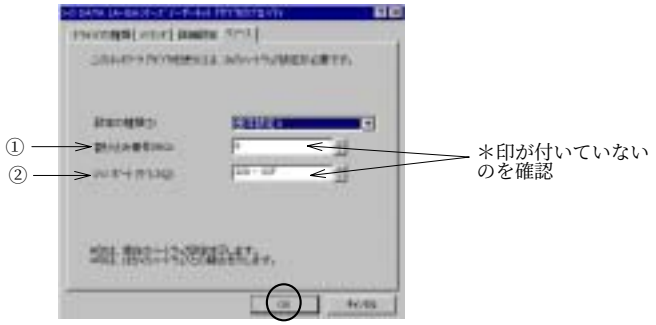
4 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面でWindows95の取扱説明書に従って各種のﾈｯﾄﾜｰｸ構成を設定してください。設定後、[OK]ボタンをクリックします。
（この設定は、Windows95再起動後、『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックしても変更できます。）



参照

Windows95の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」の設定により、Windows95同士の「ピア・ツー・ピア」接続、「NetWareクライアント」接続、「WindowsNT3.5x/4.0クライアント」接続などが可能になります。詳細は「3.4 ピア・ツー・ピア接続の設定」(P28)や「3.5 各種ネットワークシステムへの接続」(P57)をご覧頂くか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

5 「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」画面で、「I/Oﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」および「割り込み番号(IRQ)」の設定値の前に＊印が付いていないのを確認してください。付いていた場合は、[▲]または[▼]をクリックし、設定値を変更してください。設定後、[OK]ボタンをクリックします。
また、設定する「I/Oﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」及び「割り込み番号(IRQ)」は、「2.4 動作確認」(P13)での動作確認時のLA-ISAシリーズの設定値とそれぞれ同一にしてください。



同一にする値は、上記の画面の②の「I/Oﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」と下記の画面での③の「I/Oﾎﾟｰﾄ」の値です。
また、上記の画面の①の「割り込み番号(IRQ)」と下記の画面の④の「割り込み」の値も同一にしてください。

「2.4 動作確認]時のLA-ISAシリーズの設定値



6 設定後、[OK]ボタンをクリックします。インストールを開始します。

注 意

途中でWindows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力し、画面の指示に従ってください。(FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。)

7 「ｼｽﾃﾑ設定の変更」画面が表示されたら、[はい]ボタンをクリックしてパソコンを再起動させてください。

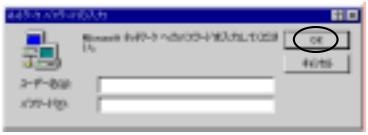
以上でインストールは終了です。次に、正常にインストールされたかの確認を行ってください。([3.3 インストール後の確認] (P26)参照)

3.3 インストール後の確認

ここではLA-ISAシリーズがWindows95で正常に認識されているかどうかの確認方法を説明します。インストール終了（再起動）後、必ず以下の事を確認してください。

パソコンを再起動すると起動途中で以下のA画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックしてください。
起動後、デスクトップ上に、「ﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンが追加されたことを確認してください。（以下のB画面）

A　「ﾈｯﾄﾜｰｸﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力」画面



B「ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟ」上の
「ﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコン



参考

Windows95では、パスワード管理も一元化されています。ユーザーID、パスワードを利用するネットワークで同一にしておけば、1つのネットワークにログインすれば、他のネットワークにユーザIDとパスワードの入力なしでログインできます。

次に、『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、「ｼｽﾃﾑ」アイコンをダブルクリックします。『ｼｽﾃﾑのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾃﾞﾊﾞｲｽ　ﾏﾈｰｼﾞｬ」タブで「ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾀﾞﾌﾟﾀ」をダブルクリックします。

① 「ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾀﾞﾌﾟﾀ」の「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」の頭に、！マークが付いていないことを確認してください。

② 「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックし、『I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」で、競合するデバイスがないことを確認してください。



③ 『I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」での「I/O ﾎﾟｰﾄ ｱﾄﾞﾚｽ」と「割り込み」がそれぞれ「2.4 動作確認」(P13)時での設定値と同一になっていることを確認してください。

「2.4 動作確認」時のLA-ISAシリーズの設定値



参照

①での確認で！マークがついていたり、②でデバイスが競合していた場合や③で設定値が異なる場合は、【付録1 困った時には】での「● Windows95上でのトラブル」(P84)を参照してください。

＜ネットワークの設定＞

『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面でWindows95の取扱説明書に従って各種のネットワーク構成を設定してください。(『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面は、『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックすると表示します。)

参照

Windows95の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」の設定により、Windows95同士の「ピア･ツー･ピア」接続、「NetWareクライアント」接続、「WindowsNT3.5x/4.0クライアント」接続などが可能になります。詳細は「3.4 ピア･ツー･ピア接続の設定」(P28)や「3.5 各種ネットワークシステムへの接続」(P57)をご覧頂くか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

3.4 ピア・ツー・ピア接続の設定

3.4.1 ファイルとプリンタの共有

Windows95を利用すれば、Windows95同士のワークグループ内のピア･ツー･ピア接続の設定を簡単に行えます。ピア･ツー･ピア接続を行えば、ファイルやプリンタの共有(ファイル(フォルダ)やプリンタを他のパソコンからアクセスできる)ができます。

＜ファイルの共有＞

ワークグループ内のデータのやりとりがマウス操作（マウスのドラッグ アンド ドロップ）で簡単に行えます。データのやり取りにフロッピィディスクなどは必要なくなります。

＜プリンタの共有＞

自分のパソコンにプリンタを接続していなくても、ワークグループ内のプリンタを使用できます。

ピア･ツー･ピア接続の設定を行うには、ワークグループ内の各パソコンで

1.『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面での「ﾕｰｻﾞｰ情報」の設定
   - ユーザー情報の設定（P30参照）

2.「共有」の設定
   - 共有の指定（P32参照）
   - ファイルの共有設定（P33参照）
   - プリンタの共有設定（P35参照）

を行う必要があります。

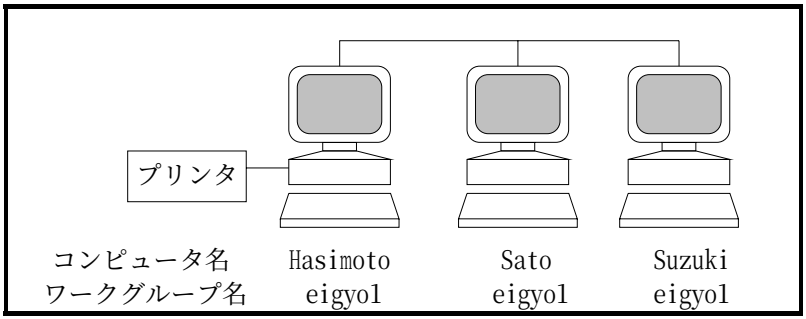
ここでは、営業1課のワークグループ（ワークグループ名：eigyou1）での設定を例として説明します。

＜設定例＞

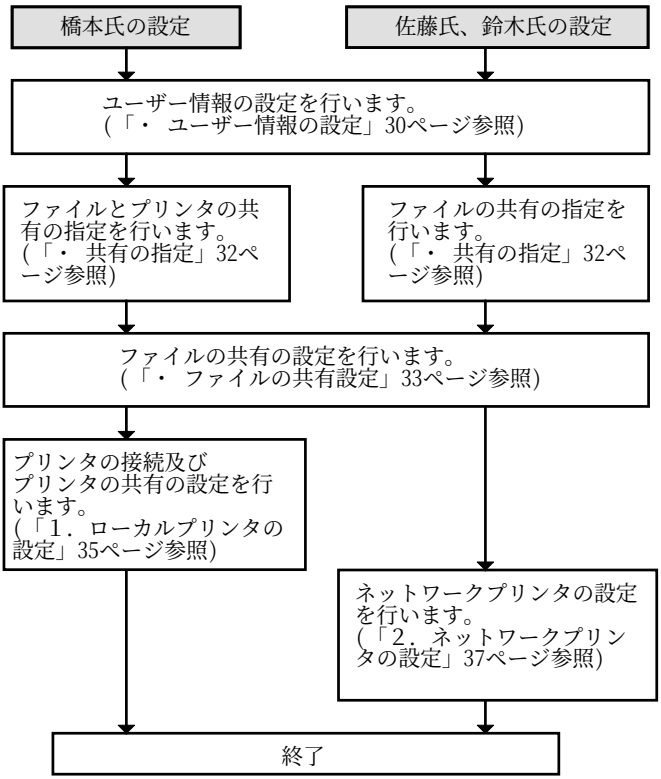
No	所属	名前	使用OS	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名	ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名	共有の設定
1	営業1課	橋本	Windows95	Hasimoto	eigyou1	ﾌｧｲﾙおよびﾌﾟﾘﾝﾀ
2	営業1課	佐藤	Windows95	Sato	eigyou1	ﾌｧｲﾙ
3	営業1課	鈴木	Windows95	Suzuki	eigyou1	ﾌｧｲﾙ

※ 「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」および「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名」は、30ページの［・ ユーザー情報の設定］時に必要となります。

＜構成＞


プリンタ
コンピュータ名
ワークグループ名
Hasimoto
eigyo1
Sato
eigyo1
Suzuki
eigyo1

＜作業手順＞


橋本氏の設定
佐藤氏、鈴木氏の設定
ユーザー情報の設定を行います。
(「・ ユーザー情報の設定」30ページ参照)
ファイルとプリンタの共有の指定を行います。
(「・ 共有の指定」32ページ参照)
ファイルの共有の指定を行います。
(「・ 共有の指定」32ページ参照)
ファイルの共有の設定を行います。
(「・ ファイルの共有設定」33ページ参照)
プリンタの接続及びプリンタの共有の設定を行います。
(「1．ローカルプリンタの設定」35ページ参照)
ネットワークプリンタの設定を行います。
(「2．ネットワークプリンタの設定」37ページ参照)
終了

• ユーザー情報の設定

ワークグループを形成するすべてのパソコンでユーザー情報を検索します、

1 **『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。**
「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。



2 **『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ﾕｰｻﾞｰ情報」タブをクリックします。**
＜設定例(P28)＞を参照して設定するパソコンすべてに「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」,「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名」,「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの説明」をそれぞれ入力します。各入力後、[OK]ボタンをクリックします。

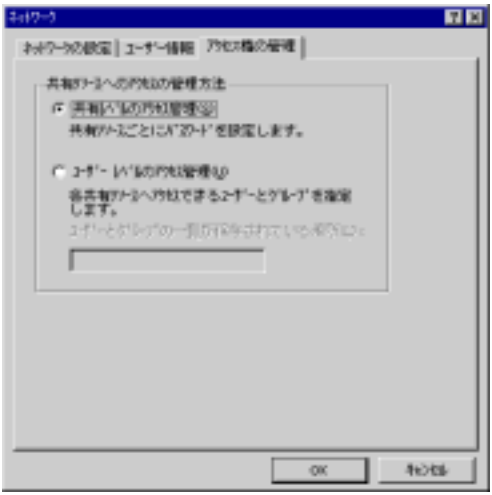
① コンピュータ名を入力します。
コンピュータ名は、ピア・ツー・ピア接続の設定終了後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンを開いた時に見える名前です。
＜設定例＞での「コンピュータ名」を入力します。

② ワークグループ名を入力します。
同一ワークグループでは、同一にする必要があります。
＜設定例＞での「ワークグループ名」を入力します。

③ コンピュータの説明を入力します。
特に入力しなくても問題ありません。



3 **アクセス権の設定を行います。**
『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ｱｸｾｽ権の管理」タブをクリックします。
Windows95のピア･ツー･ピア接続のみを行う場合は、「共有ﾚﾍﾞﾙのｱｸｾｽ管理」を選択してください。

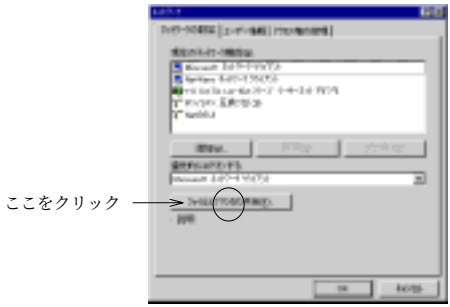


設定終了後、次ページの「・ 共有の指定」を行ってください。

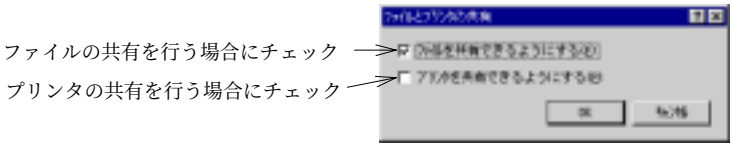
• 共有の指定

ユーザー情報を設定後、次にファイル(フォルダ)やプリンタの共有を行うワークグループ内のすべてのパソコンで、まず以下の共有の指定を行います。

1 **『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[ﾌｧｲﾙとﾌﾟﾘﾝﾀの共有]ボタンをクリックします。**



2 **共有を行うデバイス（ファイル、プリンタ）のチェックボックスのチェックを行います。チェック後、[OK]ボタンをクリックします。**
（ファイルの共有のチェックは、ファイルの共有を行うすべてのパソコンで行います。プリンタの共有のチェックは、プリンタを接続しているパソコンのみ設定(チェック)します。）



注 意

Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）
と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）

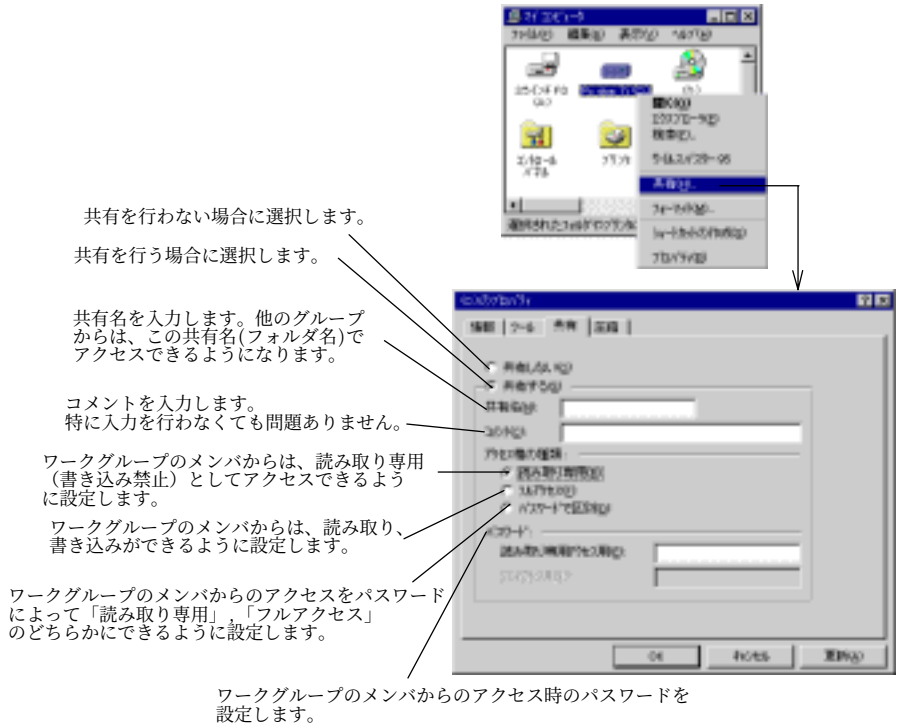
3 **『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[OK]ボタンをクリックします。クリック後、一旦Windows95を再起動します。**

この後、ファイルの共有を行う場合は、次ページの「・ ファイルの共有設定」を参照してください。プリンタの共有を行う場合は、「・ プリンタの共有設定」(P35)を参照してください。

• ファイルの共有設定

ファイルの共有を行えば、ワークグループの他のパソコンから自分のパソコンのファイルやフォルダにアクセスできるようになります。
ここでは、ファイルの共有の設定について説明します。

1 **『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』での共有を行いたいデバイスやフォルダを右クリックします。**
メニュー内の「共有」をクリックするとデバイスのプロパティでの共有設定の画面が表示されます。
共有設定の画面では「共有する」を選択します。
「共有名」、「ｱｸｾｽ権の種類」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の設定を行います。
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



2 **すべてのパソコンでの設定終了後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックし、設定したワークグループのコンピュータ名の表示を確認してください。**

ワークグループの各フォルダをダブルクリックすることでワークグループ内のファイルにアクセスできるようになります。



以上で、ファイルの共有の設定は終了です。

• プリンタの共有設定

プリンタの共有の設定を行えば、ワークグループの内のプリンタを使用することができます。
ここでは、プリンタの共有の設定を行います。
プリンタが接続されているパソコンと接続されていないパソコンでは、設定の手順が異なります。
まず、プリンタが接続されているパソコンで共有設定を行った後（以下の【1.ローカルプリンタの設定】参照）、他のパソコンでネットワークプリンタの設定（【2.ネットワークプリンタの設定】(P37)参照）を行います。

1．ローカルプリンタの設定
（プリンタが接続されているパソコンの設定）

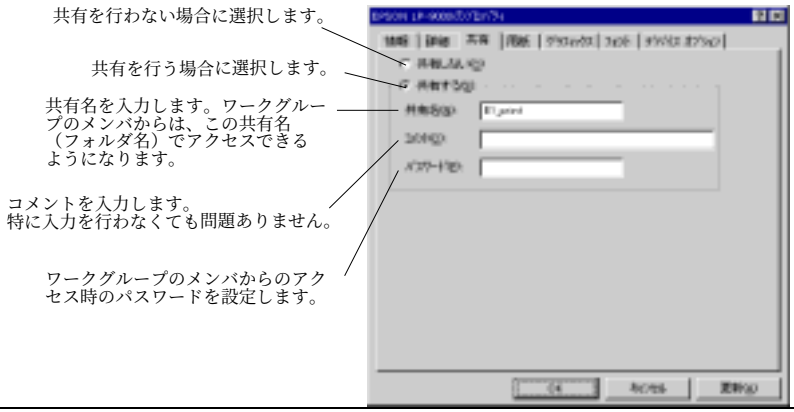
ここでは、プリンタが接続されているパソコン（＜設定例＞(P28)での橋本氏のパソコン）でのプリンタの共有設定を行います。

1 プリンタの接続およびWindows95でのプリンタの設定を行ってください。
（接続及び設定に関しては、プリンタに付属のマニュアル及びWindows95のマニュアル及びヘルプを参照してください。）

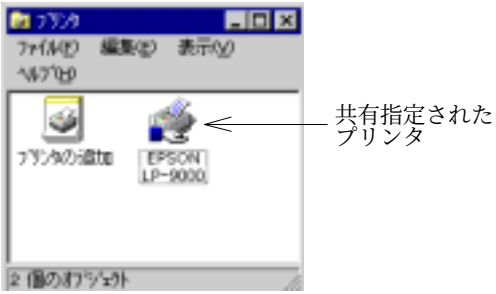
2 設定後、プリンタの共有の設定を行います。
『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』画面の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックします。
設定したプリンタが表示されています。設定したプリンタを右クリックします。メニュー内の「共有」をクリックするとプリンタのプロパティの画面が表示されます。



3 **「共有する」を選択します。**
「共有名」、「ｺﾒﾝﾄ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の設定を行います。設定後、[OK]ボタンをクリックします。



以上で設定終了です。「ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックすると設定したプリンタが共有指定されています。



次に次ページの「2.ネットワークプリンタの設定」を行ってください。

２．ネットワークプリンタの設定
（プリンタが接続されていないパソコンでの設定）

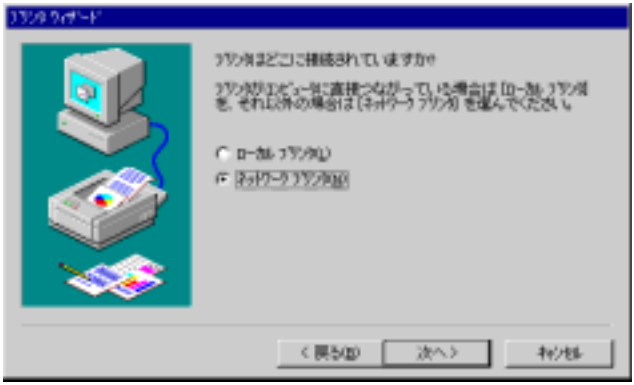
ここでは、プリンタが接続されていないパソコン（＜設定例＞(P28)）での鈴木氏、佐藤氏でのパソコン）からローカルプリンタ（＜設定例＞での橋本氏のプリンタ）を使用するためのネットワークプリンタの設定について説明します。

注 意

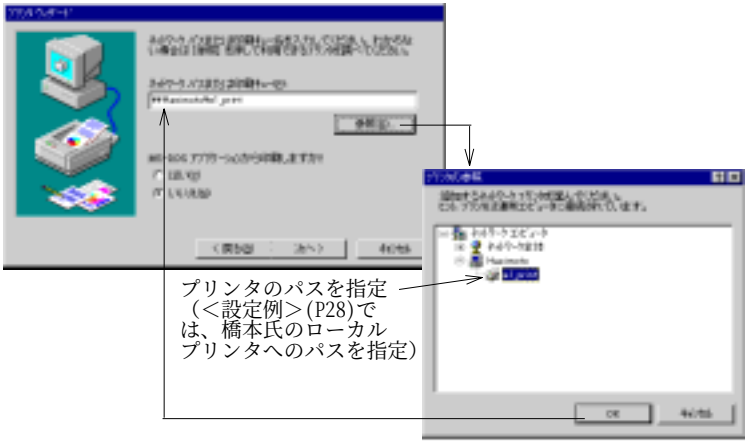
ネットワークプリンタを使用するには、「１．ローカルプリンタの設定」(P35)でのローカルプリンタが設定済みである必要があります。

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ﾌﾟﾘﾝﾀ』の「ﾌﾟﾘﾝﾀの追加」アイコンをダブルクリックします。『ﾌﾟﾘﾝﾀ ｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。[次へ]ボタンをクリックします。

2 「ﾌﾟﾘﾝﾀはどこに接続されていますか?」では、「ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀ」を選択後、[次へ]ボタンをクリックします。



3 「ﾈｯﾄﾜｰｸﾊﾟｽまたは印刷ｷｭｰ....」では、ネットワークパス（ローカルプリンタへのパス名）を指定し、[次へ]ボタンをクリックします。
（わからない場合は、[参照]ボタンでローカルプリンタが接続されているパス名（＜設定例＞(P28)での橋本氏のプリンタへのパス名）を選択後、[OK]ボタンをクリックすれば設定できます。）



4 「ﾌﾟﾘﾝﾀ名」を入入後、[次へ]ボタンをクリックします。

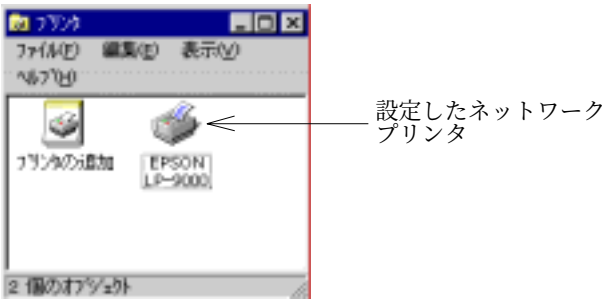
5 「ﾃｽﾄﾍﾟｰｼﾞを印刷しますか?」では、テストページを印刷する場合は「はい」を、しない場合は「いいえ」を選択後[完了]ボタンをクリックします。
ファイルのコピーを開始します。



注 意

Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）
と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）

以上で設定終了です。
『ﾏｲｺﾝﾋﾟｭｰﾀ』画面の「ﾌﾟﾘﾝﾀ」アイコンをダブルクリックします。
設定したプリンタが表示されています。



以上でプリンタの共有の設定は終了です。

3.4.2　メールの設定

Windows95を利用すれば、Windows95からの他のネットワークとのメールのやり取りが簡単に行えます。
ここでは、ピア･ツー･ピア接続をしているパソコン同士を前提として、メールのやり取りの設定及び簡単な送受信の例を説明します。詳細は、Windows95の取扱説明書やヘルプを参照してください。

メールをやり取りするには、以下の順所での設定が必要です。

1.メールのポストオフィス管理者（メールを管理する人）の設定

① メール管理用のポストオフィスのフォルダの作成･設定

② 「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」のインストール及び設定

③ ユーザー登録

2.メールユーザー（メールを使用する人）の設定

① 受信トレイの設定



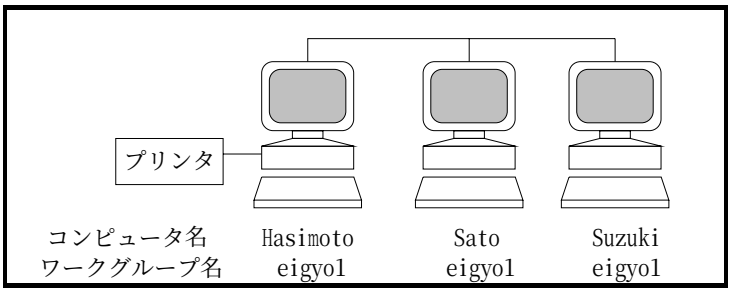
参 考

メールの送受信は、ポストオフィスという一種のデータベースを通して送信（ポストオフィスへの書き込み）、受信（ポストオフィスからの読み込み）を行います。

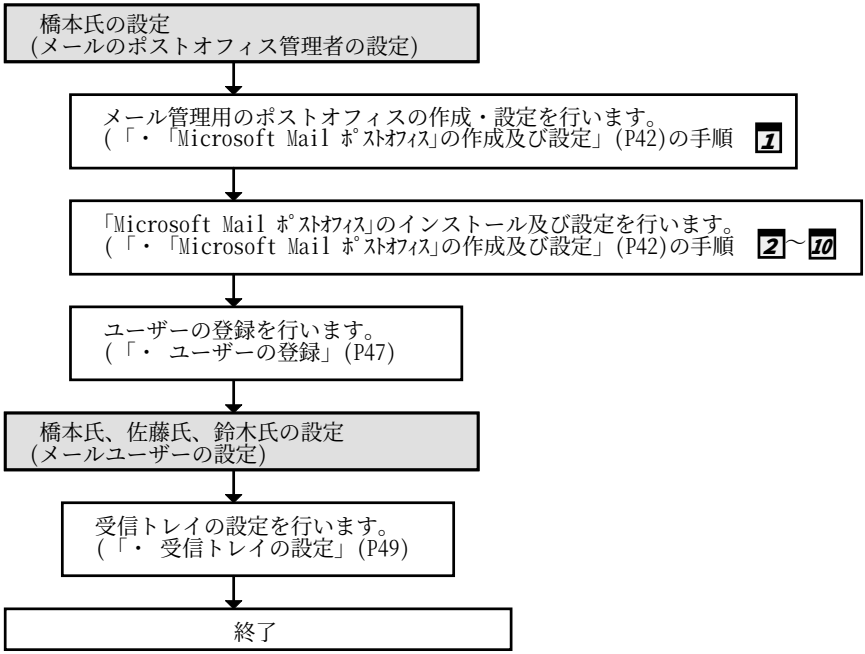
＜設定例＞

No	所属	名前	使用OS	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名	ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ名	ﾒｰﾙ管理およびﾕｰｻﾞｰ
1	営業1課	橋本	Windows95	Hasimoto	eigyou1	管理者及びﾕｰｻﾞｰ
2	営業1課	佐藤	Windows95	Sato	eigyou1	ﾕｰｻﾞｰ
3	営業1課	鈴木	Windows95	Suzuki	eigyou1	ﾕｰｻﾞｰ

＜構成＞



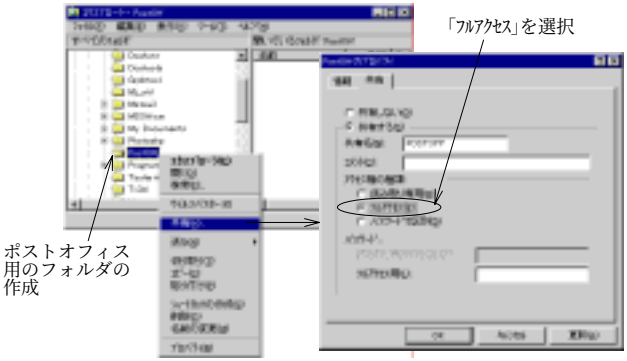
＜作業手順＞


橋本氏の設定
(メールのポストオフィス管理者の設定)
メール管理用のポストオフィスの作成・設定を行います。
(「・「Microsoft Mail ポストオフィス」の作成及び設定」(P42)の手順 1
「Microsoft Mail ポストオフィス」のインストール及び設定を行います。
(「・「Microsoft Mail ポストオフィス」の作成及び設定」(P42)の手順 2～10
ユーザーの登録を行います。
(「・ ユーザーの登録」(P47)
橋本氏、佐藤氏、鈴木氏の設定
(メールユーザーの設定)
受信トレイの設定を行います。
(「・ 受信トレイの設定」(P49)
終了

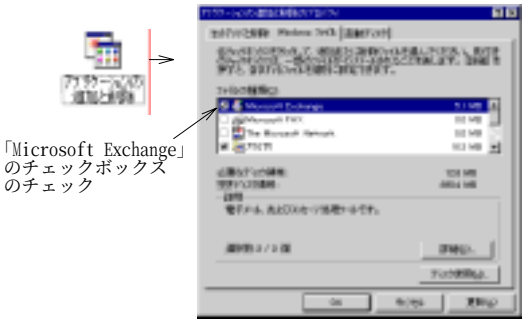
• 「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定

ここでは、メール管理者(＜設定例＞(P40)での橋本氏)での「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定について説明します。

1 **まず、メールを管理するためのワークグループのポストオフィスのフォルダの作成と共有指定を行います。エクスプローラ等でフォルダを作成後、他のメールユーザーから読み書きできるように「ﾌﾙｱｸｾｽ」での共有設定を行ってください。(共有の設定については、「3.4.1」の「・ 共有の指定」(P32)及び「・ ファイルの共有設定」(P33)を参照してください。)**



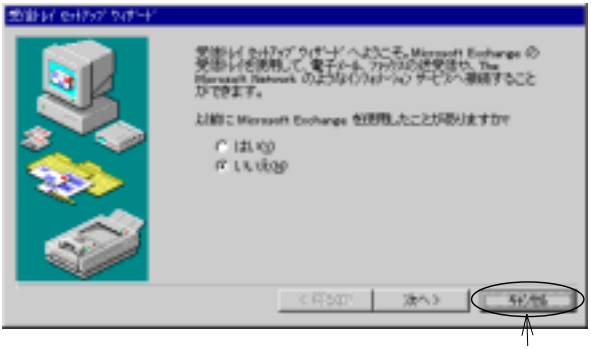
2 **『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』のインストールを行います。『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』のインストールは、「Microsoft Exchange」のインストールで行います。**
『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、『ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の[Microsoft Exchange]チェックボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。[Microsoft Exchange]のファイルのコピーを開始します。



注 意

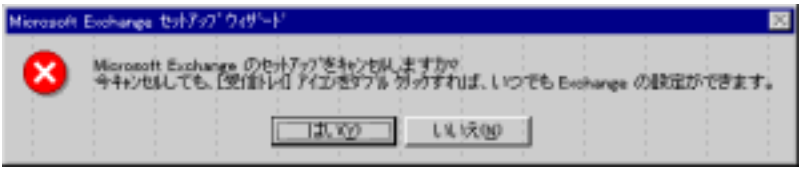
Windows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　（CD-ROMドライブがDドライブの場合）
と入力し、画面の指示に従ってください。（FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。）

3 **『受信ﾄﾚｲ ｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。ポストオフィスのセットアップを終了しないとメールは使用できませんので、メール管理者のパソコンでは受信トレイの設定を中断し、ポストオフィスの設定に移ります。**
そのためここでは、[ｷｬﾝｾﾙ]ボタンをクリックし、受信トレイのセットアップを中止します。



「ｷｬﾝｾﾙ」 を選択

4 **「Mictosoft Exchangeのｾｯﾄｱｯﾌﾟをｷｬﾝｾﾙしますか?」では、[はい]ボタンをクリックします。**



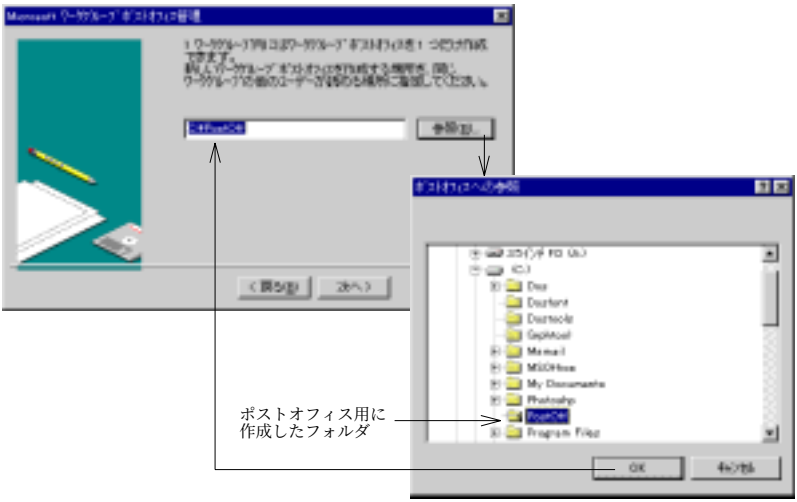
5 『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』に「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」アイコンが登録されています。（表示されていない場合は、「表示」メニューの「最新の情報を更新」を選択すれば表示されます。）
『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンをダブルクリックします。



6 「Microsoft ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ管理」画面が表示されます。
新規にポストオフィスを作成しますので、「新しいﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを作成する」を選択して、[次へ]ボタンをクリックしてください。



7 「ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを作成する場所」の指定では、手順1で作成したフォルダのパスを指定してください。
([参照]ボタンでもポストオフィスを作成した場所を指定できます。)



8 「新しいﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを次のﾃﾞｨﾚｸﾄﾘに作成します。」では、[次へ]ボタンをクリックします。
変更する場合は、[戻る]ボタンで再度指定し直してください。



9 **「ｱｶｳﾝﾄの詳細を入力」画面が表示されます。**
「名前」,「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」等を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

メール管理者の名前を入力します。
この名前は、メール管理用です。
Windows95のユーザー名と同じでなくても
かまいません。

個人用のメールボックスです。
英数字しか使えません。

パスワードを入力します。
メール専用のパスワードです。このパス
ワードは、Windows95のユーザー名のパス
ワードと同じでなくてもかまいません。

電話番号、事業所、部署、ﾒﾓを入力します。
これらの項目は、コメントです。
メールの動作には、影響しません。



10 **「....にﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽが作成されました。」では、[OK]ボタンをクリックします。**
ワークグループのポストオフィスが作成されました。



以上でワークグループのポストオフィスの作成は終了です。

• ユーザーの登録

メールを使用するためには、メール管理者(＜設定例＞(P40)での橋本氏)がメールを使用するユーザー全員の登録を行う必要があります。
「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P42)で作成したポストオフィスにメールを使用するユーザーの登録を行います。

1 **『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の『Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ』アイコンをダブルクリックします。**
『Microsoft ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ管理』画面では、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P42)でポストオフィスは作成しましたので、「既存のﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽを管理する」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



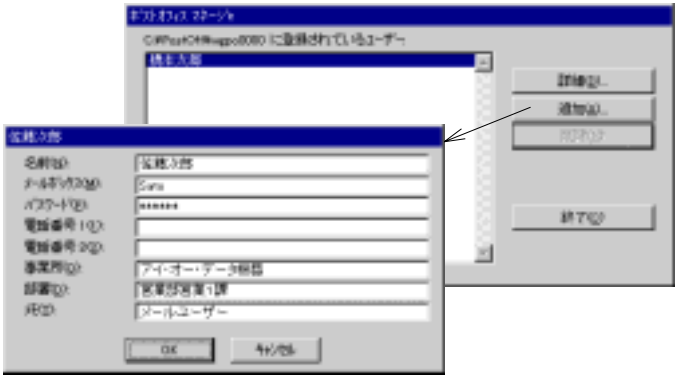
2 **「管理するﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟのﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽの場所を指定してください。」では、表示されているフォルダでよければ[次へ]ボタンをクリックしてください。**
(最初の表示は、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」(P42)で作成したフォルダです。)



3 「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」と「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」の入力では、「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」の手順9(P46)で指定したメール管理者の「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」と「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力します。
（入力した「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は「*****」と表示されます。）



4 登録するユーザーの設定を行います。
[追加]ボタンで、メールを使用するすべてのユーザーの追加を行ってください。「名前」、「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」、「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は必ず入力が必要です。
すべてのユーザーの追加を終了後、[終了]ボタンをクリックします。



＜設定例＞(P40)では以下を追加します。

No	名前	ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ	ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ
1	佐藤次郎	Sato	PASSWORD
2	鈴木三郎	Suzuki	PASSWORD

「名前」,「ﾒｰﾙﾎﾞｯｸｽ」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」は、メール専用です。

以上でユーザー登録は終了です。次に、メールを使用するユーザー側の設定を行います。
次ページの「・ 受信トレイの設定」を行ってください。

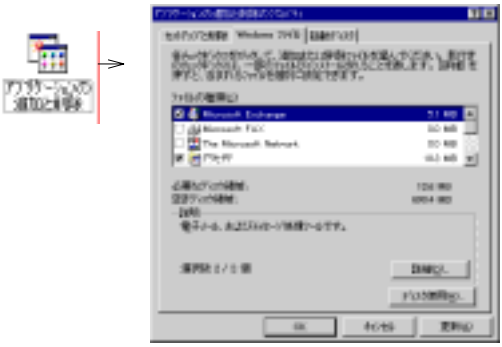
• 受信トレイの設定

「・「Microsoft Mail ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽ」の作成及び設定」及び「・ ユーザーの登録」でメール管理者の設定が終了しましたので、次にメールを使用するユーザー側の設定を行います。
メールを使用する前に[受信ﾄﾚｲ]の設定を行います。メールを使用するユーザー全員が設定を行う必要があります。

注 意

メール管理者(＜設定例＞(P40)での橋本氏)がメールを使用する場合は、デスクトップ上の「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリック後、次ページの手順3からの手順となります。

1 まず、[Microsoft Exchange]のインストールを行います。
『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』の「ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、『ｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝの追加と削除のﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の[Microsoft Exchange]チェックボックスをチェックし、[OK]ボタンをクリックしてください。[Microsoft Exchange]のファイルのコピーを開始します。



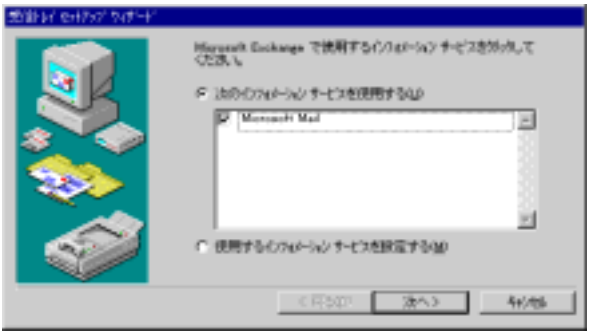
注 意

途中でWindows95のCD-ROMを要求された場合、CD-ROMを準備して
d:\win95　(CD-ROMドライブがDドライブの場合)
と入力し、画面の指示に従ってください。(FD版をご使用の場合は、Windows95のディスクを挿入するドライブを指定し、画面の指示に従って、ディスクを入れ替えてください。)

2 **『受信ﾄﾚｲｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面が表示されます。[いいえ]を選択後、[次へ]ボタンをクリックします。**



3 **「Microsoft Exchange で使用するｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｻｰﾋﾞｽをｸﾘｯｸしてください。」では、使用するインフォメーションサービスを選択してください。**
選択後、[次へ]ボタンをクリックしてください。



参考

Windows95のインストール時に「The Microsoft Network」をインストールしていれば、使用するインフォーメーションの一覧に「The Microsoft Network」の項目が追加されています。
また、「Microsoft PLUS!」をインストールしていれば、「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ」の項目が追加されています。
「The Microsoft Network」及び「ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ ﾒｰﾙ」の設定についてはWindows95のマニュアルやヘルプをご覧ください。

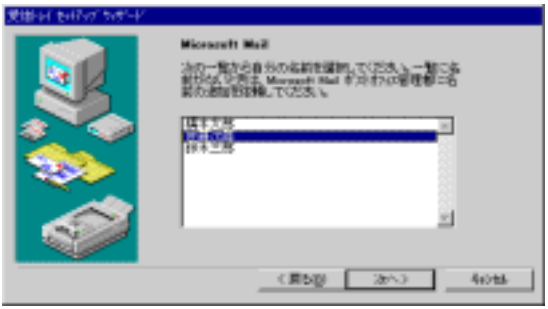
4 「....ﾎﾟｽﾄｵﾌｨｽの場所を指定してください。」では、管理者が設定したポストオフィスの場所（フォルダ）のパスを指定します。（わからない場合は、管理者に確認し、[参照]ボタンで管理者のポストオフィスのパスを指定してください。）



注 意

管理者のポストオフィスのフォルダを共有指定にしていない場合は、ポストオフィスに接続できません。ポストオフィス管理者に確認してください。

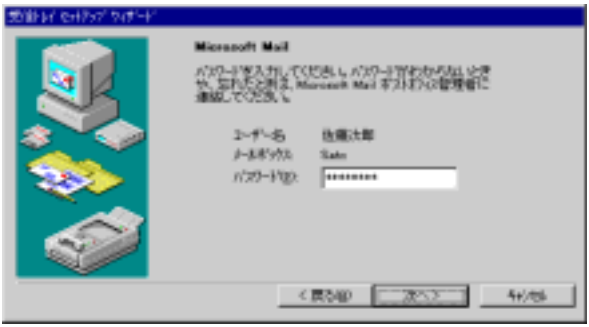
5 名前の一覧表示の画面では、自分の名前を選択し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



注 意

名前の一覧に自分の名前がない場合は、ポストオフィス管理者に名前の追加を依頼してください。

6 **[ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ]入力画面になります。管理者が設定したパスワードを入力してください。パスワードがわからなければ、管理者に確認してください。**



注 意

パスワードは、管理者が設定した（「・ ユーザーの登録」での手順4(P48)で設定した）パスワードです。

7 **「個人用ｱﾄﾞﾚｽ帳のﾊﾟｽを入力してください。」では、個人用のアドレス帳を作成するパスを入力してください。表示の内容でよければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。（変更する場合は、[参照]ボタン等で変更してください。）**



参 考

個人用アドレス帳とは、ﾒｰﾙの送信する相手の宛先などを書き留めた住所録です。相手の宛先を手入力などせず、マウス操作で簡単に行うためのものです。

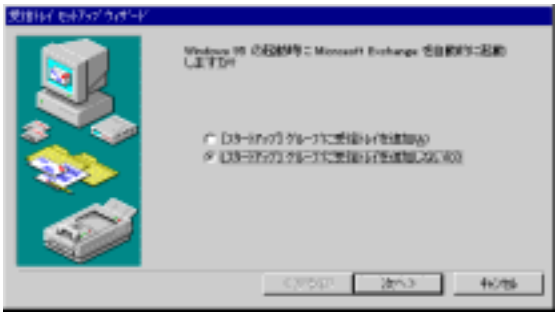
8 「個人用ﾌｫﾙﾀﾞﾌｧｲﾙ(PSTﾌｧｲﾙ)のﾊﾟｽを入力してください。」では、個人用フォルダを作成するパスを入力してください。表示の内容でよければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。（変更する場合は、[参照]ボタン等で変更してください。）



参考

メールの送受信は、まず個人用フォルダを通してメールのやり取りを行います。

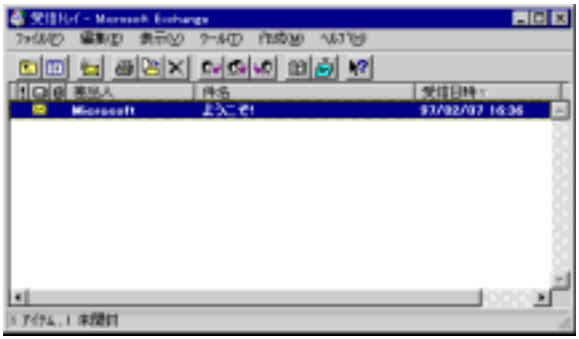
9 「Windows 95 の起動時に Microsoft Exchange を自動的に起動しますか?」では、[ｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ]グループに受信ﾄﾚｲを追加する場合（Windows95起動時に自動的に受信トレイを開いてメールを確認する場合）は「...追加」を、追加しない場合は「...追加しない」を選択してください。



10 「ｾｯﾄｱｯﾌﾟが完了しました。」では、[終了]ボタンをクリックしてください。



11 「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックすると、Microsoftよりメールが届いています。
メールを選択し、ダブルクリックしてメールの内容を確認してみてください。



以上でメールユーザー側の設定は終了です。

• メールの送受信

それでは、実際にメールの送信及び受信をしてみましょう。まず、送信側でメールを作成・送信し、次に受信側でメールを受信できたか確認を行います。ここでは、佐藤氏から橋本氏へのテストデータ送受信の例で説明しています。

1．メールの送信

1 **メールを作成して送信してみましょう。**
「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックして「受信ﾄﾚｲ」画面を起動します。
「受信ﾄﾚｲ」画面の送信メールの作成ボタンをクリックするか、「作成」メニューの「ﾒｯｾｰｼﾞの作成」を選択してメールをまず作成します。



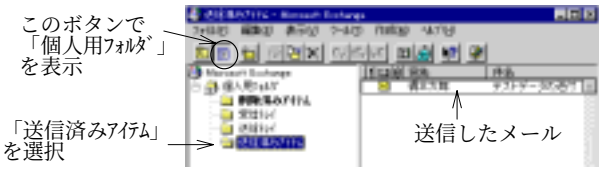
2 **メール本文に送信したいメッセージを入力します。**
本文入力後、宛先、件名を入力後、送信ボタンをクリックします。メールが送信されます。



参照

メールでは文字だけでなく、絵やファイル等も添付できます。詳細な設定等に関しては、ヘルプを参照してください。

3 **送信側で「メールは送信済みか」を確認します。「個人用ﾌｫﾙﾀﾞ」での「送信済みｱｲﾃﾑ」を選択します。送信したメールが右に表示されています。**



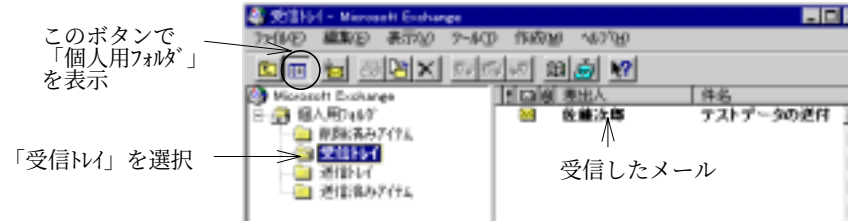
2. メールの受信

1 **今度は、受信側での確認です。以下の①、②でメールを受信しているか確認できます。（送信後から受信するまでにかなりの時間がかかる場合もあります。）**

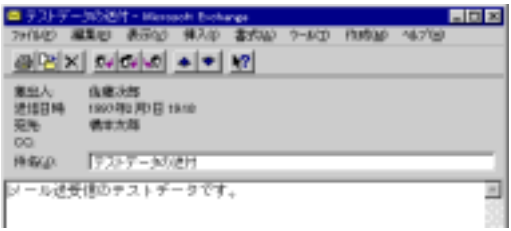
① 「受信ﾄﾚｲ」アイコンをダブルクリックしてメールを受信しているか確認してみます。



② 受信したメールは、[個人用ﾌｫﾙﾀﾞ]の[受信ﾄﾚｲ]を選択しても確認できます。



2 **受信したメールをダブルクリックすれば、受信メールの内容を確認できます。**



以上でメールの送信及び受信は終了です。

3.5 各種ネットワークシステムへの接続

Windows95では、Microsoft社よりNovel NetWare、Microsoft WindowsNT、IBM LanServer for OS/2、Banyan Vines、DEC Pathworks等にアクセスするためのクライアント機能およびプロトコルが標準装備されています。また、Windows95同士のピア・ツー・ピア接続も簡単に行えます。
また、ネットワークへのログイン作業も、ユーザIDおよびパスワードをログインしたいネットワーク（サーバ）すべてで同一にしておけば、1つのネットワークにログインすれば、自動的に他のネットワーク（サーバ）にログインできます。

ここでは、

各種ネットワークシステムにクライアントとして接続するための手順

・NetWareサーバへの接続（「3.5.1」(P58)参照）

・WindowsNTサーバへの接続（「3.5.2」(P62)参照）

について説明します。
NetWareサーバ及びWindowsNTサーバにクライアントとして接続する場合は、事前にネットワークシステム管理者にユーザー登録を行ってもらう必要があります。その時点で、「ユーザーID」及び「パスワード」を取得してください。
また、サーバへの接続のためにサーバ名（WindowsNTではドメイン名）も確認する必要があります。詳しくは、ネットワークシステム管理者にご確認ください。

3.5.1　NetWareサーバへの接続

ここでは、NetWareサーバでのWindows95のクライアント設定について説明します。

注 意

Windows95バージョン4.00.950または950aをお使いの場合
（Windows95のバージョンの確認は、10ページを参照してください。）
Microsoftから提供されるNetWareクライアントは、Netware 3.1xJのバインダリに対応した機能しかありません。Netware 4.1J/4.11Jから提供されるNetWareディレクトリサービス（NDS）には対応していません。そのため、NetWare 4.1J/4.11Jサーバにログインするためには、サーバ側でバインダリエミュレーションを実行している必要があります。（NetWare 4.1J/4.11Jのインストールでは、自動的にデフォルト設定されています。）
なお、Microsoft社とNovell社よりNetware 4.1J/4.11JのNDSに対応したクライアントプログラムが、Web等で公開されています。これを利用することもできます。
（Windows95バージョン4.00.950 Bをお使いの場合は、NDSに対応していますので特に設定等はありません。）

• 接続の設定

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。
「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。



参考

NetWareのみの環境を使用する場合は、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」には、以下の3つが設定されていれば使用できます。

1. クライアントには「NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸｸﾗｲｱﾝﾄ」
2. アダプタには「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」
3. プロトコルには「IPX/SPX 互換ﾌﾟﾛﾄｺﾙ」

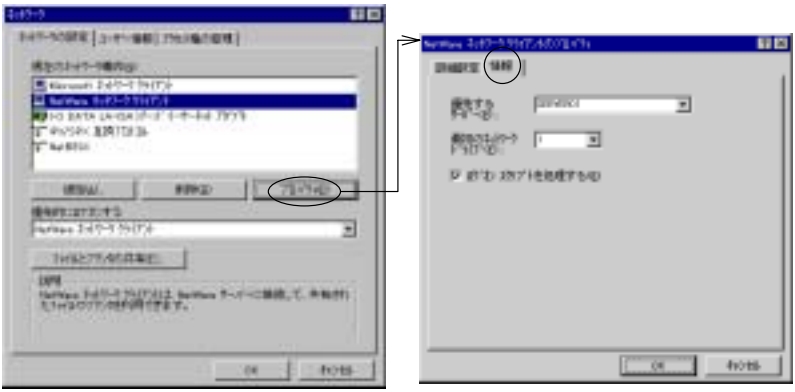


2 「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」の「NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。『NetWare ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面が表示されます。「情報」タブをクリックします。

「優先するｻｰﾊﾞｰ」,「最初のﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾌﾞ」,「ﾛｸﾞｲﾝｽｸﾘﾌﾟﾄの処理」の設定を行います。（設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）

設定後、[OK]ボタンをクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の[OK]ボタンをクリックします。

一旦Windows95を再起動します。

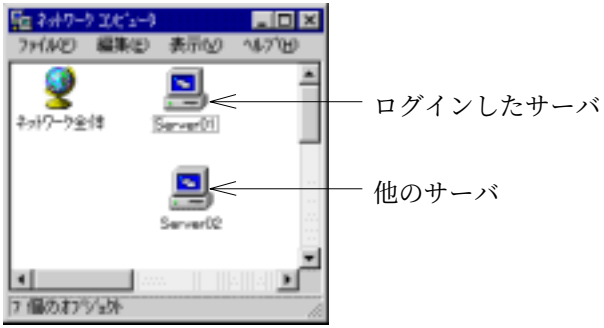


3 **再起動後、起動途中で手順2で設定した「優先するｻｰﾊﾞｰ」で指定したログインサーバでの『ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力』画面が表示されます。**
ユーザー登録した「ﾕｰｻﾞｰ名」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力後、[OK]ボタンをクリックしてください。クリック後、Windows95の起動を続行します。

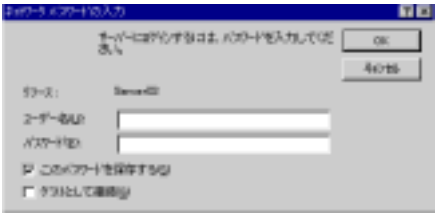


4 **起動後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックすると、現在ログインしているサーバが、「ﾈｯﾄﾜｰｸ全体」アイコンの横に表示されています。ログインしているサーバのアイコンをダブルクリックすることでサーバ上で設定されたアクセス権（トラスティ）で許されているファイルやフォルダにアクセスできます。**

（画面は、「Server01」サーバが表示されている例）



他のNetWareサーバにアクセスするには、「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」上のログインしたいサーバをダブルクリックします。「ﾕｰｻﾞｰ名」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力し、[OK]ボタンをクリックすればアクセスできます。



• ネットワークドライブのマップ

ここでは、ドライブポインタが必要なアプリケーションのためのドライブのマッピング方法について説明します。

1 **デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックします。ドライブマッピングを行いたいフォルダを右クリックし、メニュー内の「ﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾌﾞの割り当て」を選択します。**



2 **「ﾄﾞﾗｲﾌﾞ」のところに、使用していないドライブを割り当てます。「ﾛｸﾞｵﾝ時に再接続」のチェックボックスのチェックを行えば、次回そのサーバにログインした時に、そのドライブにマッピングを行います。**



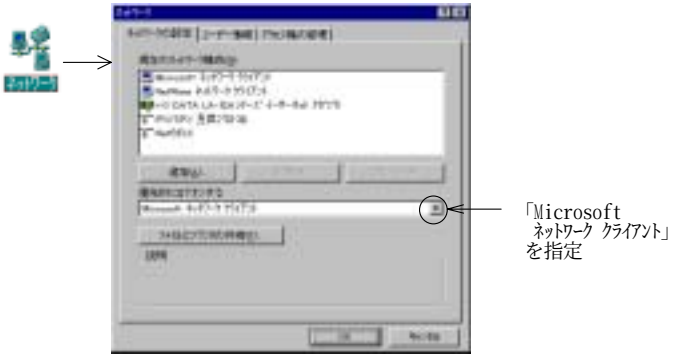
以上でNetWareサーバでのWindows95のクライアント接続の設定は終了です。

3.5.2　WindowsNTサーバへの接続

ここでは、WindowsNTサーバでのWindows95のクライアント設定について説明します。

• 接続の設定

1 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙ　ﾊﾟﾈﾙ』を選択し、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックします。『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面が表示されます。
「優先的にﾛｸﾞｲﾝする」は、「Microsoft　ﾈｯﾄﾜｰｸ　ｸﾗｲｱﾝﾄ」を設定してください。



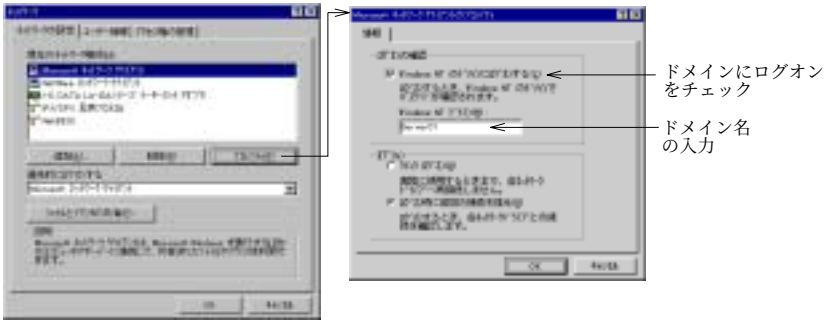
参考

WindowsNTのみの環境を使用する場合は、『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」には、以下の3つが設定されていれば使用できます。

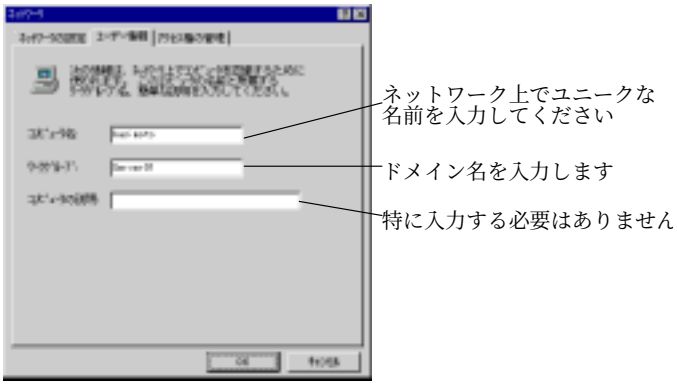
1. クライアントには「Microsoft　ﾈｯﾄﾜｰｸ　ｸﾗｲｱﾝﾄ」
2. アダプタには「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ　ｲｰｻﾈｯﾄ　ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」
3. プロトコルには「NetBEUI」



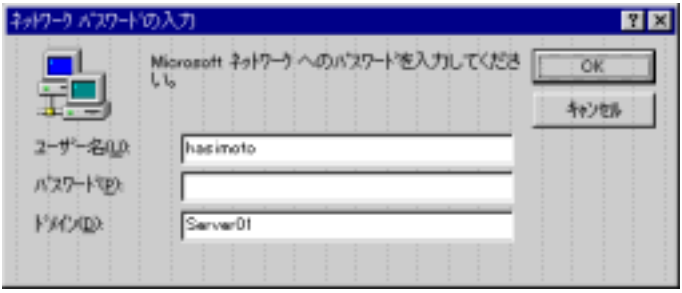
2 「現在のﾈｯﾄﾜｰｸ構成」の「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄ」を選択後、[ﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ]ボタンをクリックします。「Microsoft ﾈｯﾄﾜｰｸ ｸﾗｲｱﾝﾄのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ」画面が表示されます。
WindowsNTのドメインに参加する場合は、「ﾈｯﾄﾜｰｸの設定」での
「Windows NT のﾄﾞﾒｲﾝにﾛｸﾞｵﾝする」のチェックボックスのチェック、
「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」名の入力、「ｵﾌﾟｼｮﾝ」の各設定を行います。
（設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）
設定後、[OK]ボタンをクリックします。



3 『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面の「ﾕｰｻﾞ情報」の設定を行います。
「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名」、「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」、「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの説明」の各設定を行います。Windows NTのドメインに参加する場合、「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」は、手順2で設定した「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」と同じドメイン名を設定してください。それ以外の場合は、ネットワークを使用するグループで決めたユニークな名前を入力してください。（その他の設定内容に関しては、ネットワークシステム管理者にご相談ください。）

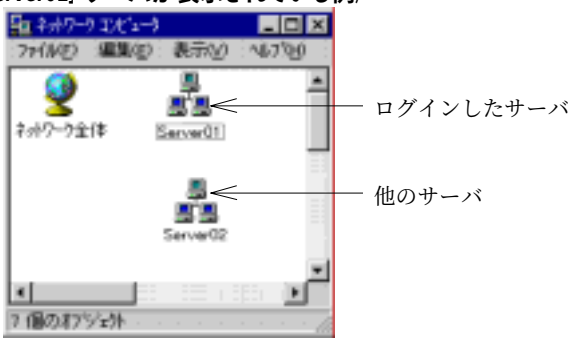


4 **再起動後、起動途中で手順2で設定した「Windows NT ﾄﾞﾒｲﾝ」名で指定したドメインでの『ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞの入力』画面が表示されます。**
ユーザー登録した「ﾕｰｻﾞｰ名」,「ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ」を入力後、[OK]ボタンをクリックしてください。クリック後、Windows95の起動を続行します。



5 **起動後、デスクトップ上の「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ」アイコンをダブルクリックすると、現在ログインしているサーバが、「ﾈｯﾄﾜｰｸ全体」アイコンの横に表示されています。ログインしているサーバのアイコンをダブルクリックすることでサーバ上で設定されたアクセス権（トラスティ）で許されているファイルやフォルダにアクセスできます。**

（画面は、「Server01」サーバが表示されている例）



以上でWindowsNTサーバでのWindows95のクライアント接続の設定は終了です。

3.5.3 LANtastic for Windows95へのセットアップ

「2.4 動作確認」(P13)を参照して正常に動作することを確認の上、Windows95を起動してください。「3.1 「ﾌﾟﾗｸﾞ&ﾌﾟﾚｲ」モードでのインストール」(P20)または「3.2 「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」モードでのインストール」(P23)を参照してLA-ISAシリーズのドライバのインストールを行ってください。
インストール終了後、パソコンを再起動した後に、「LANtastic for Windows95」のインストールを行ってください。

「LANtastic for Windows95」のインストール方法その他詳細は、「LANtastic for Windows95」のマニュアルを参照してください。

第4章 他のOSで使用するには

この章では、各ネットワークOSへのセットアップ方法について説明します。

4.1 日本語Windows3.1及びMS-DOSへのセットアップ

4.1.1 NetWare 3.12J/4.1J/4.11Jへのセットアップ

サーバを設定する場合は本ページ以降を、クライアントを設定する場合は「● クライアントの設定」70ページ以降を参照してください。

● サーバの設定

ドライバをインストールする前に、MS-DOS上で診断プログラムを動作させてアダプタが正常である事を確認してください。



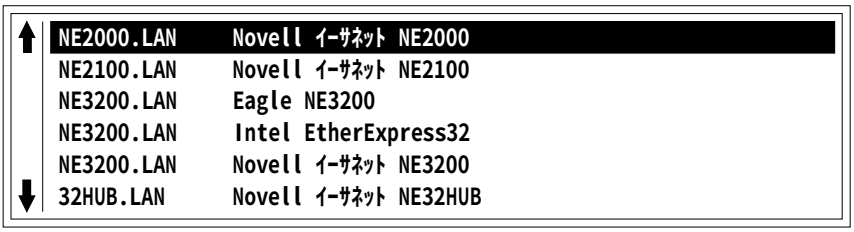
注 意

1)LA-ISAシリーズの「ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞﾓｰﾄﾞ」は、「ｼﾞｬﾝﾊﾟﾚｽ」モードにして設定してください。(「2.4 動作確認」13ページ参照)

2)NetWareサーバの設定を行う前に、「2.4 動作確認」(13ページ参照)でMS-DOS上での診断および設定プログラムを動作させてあらかじめリソースの設定を行います。この時の設定(「I/Oポート」のみ)はサーバのインストール時に再度設定する必要がありますので、メモしておいてください。

- **NetWare4.1J/4.11Jサーバのインストール時の場合**

1 **ネットワークドライバの設定画面で[Ins]キーを押し、「リストにないドライバ」のインストールを行います。**



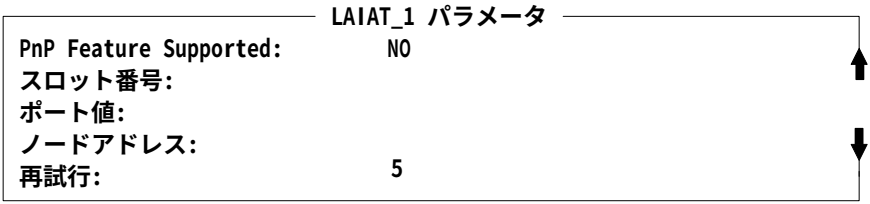
リストにないドライバのインストール<Ins>

2 **「LA-ISAシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、スキャンするパスと同じならそのまま・キーを押し、異なる場合は[F3]キーを押してディレクトリパス（ドライブ名のみ）を入力してください。**

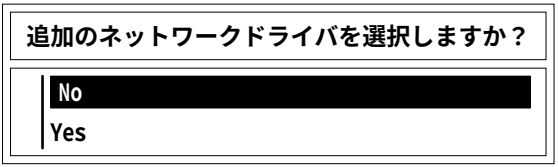
3 **インストールするドライバの選択で以下のように表示されていることを確認して、4.1Jのドライバをご利用になる場合は②を、4.11Jのドライバをご利用になる場合は①を選択してください。**



4 **次の画面であらかじめLA-ISAシリーズに設定した「I/Oポート」をパラメータに設定してください。**



5 **さらにLAシリーズを追加する場合は、「追加のネットワークドライバを選択しますか？」の画面で「Yes」を選択すると1)～5)を繰り返します。**



以上で設定は終了です。

• NetWare4.1J/4.11Jサーバへ追加設定する場合

1 **システムコンソールから**

xxxx:LOAD INSTALL・　　（下線部入力）

と入力し、「ﾄﾞﾗｲﾊﾞｵﾌﾟｼｮﾝ」-「ﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾊﾞの設定」-「追加ﾄﾞﾗｲﾊﾞの選択」を選択してください。

2 **後は、「・ NetWare4.1J/4.11Jサーバのインストール時の場合」67ページを参照してインストールしてください。追加ドライバに対する操作で「追加ﾄﾞﾗｲﾊﾞの選択」を選択してください。**

• NetWare3.12Jサーバのインストール時の場合

1 サーバマシンでMS-DOSを起動してください。（サーバマシンですでにNetWareが起動している場合は、ユーザーに通知してからシャットダウンしてください。）

2 「LA-ISAシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、フロッピィドライブのnetware\server\4.1Jディレクトリから NetWare3.12Jサーバがインストールされているディレクトリ（通常はserver.312）に必要なNetWareサーバ用ドライバをコピーしてください。

```
copy a:\netware\server\4.1J\laiat.lan c:\server.312
```

3 NetWare3.12Jサーバを起動して、システムコンソールから

xxxx:LOAD INSTALL・　　（下線部入力）

と入力してください。

4 表示されているメニューから「ｼｽﾃﾑｵﾌﾟｼｮﾝ」-「AUTOEXEC.NCFﾌｧｲﾙの編集」を選択し、下記の3行を追加してください。

（例:イーサネット802.2[フレームタイプ]を使用する場合）

```
load c:\server.312\laiat int=3 port=300 frame=ethernet_802.2 name=laciat_1_e8
bind ipx to laiat_1_e82 net=xxxx
```

（xxxxはNetWareの環境によって異なります。）

下線の部分は同じにしてください。

以上でインストールは終了です。NetWare3.12Jを再起動すると有効になります。

注 意

1) NetWare3.12Jサーバの設定は複雑です。詳細はNetWareなどの取扱説明書を参照してください。
2) autoexec.ncfに変更を加えた場合は、その環境を有効にするために必ずNetWare3.12Jサーバを再起動してください。

● クライアントの設定

すでにNetWareのクライアント環境が存在し、LA-ISAシリーズ用に変更を加える場合は、lasetup.exeを起動し、「NetWareドライバのコピー」を選択してセットアップを行ってください。

NetWareで使用するNET.CFGは、lasetup.exeを起動し、「NetWareクライアントのセットアップ」を使用してインストールを行うことにより自動的にLA-ISAシリーズのI/Oポートアドレスが記述されます。その他の設定変更に関しては（FIRST NETWORK DRIVEはデフォルトでHドライブに設定されています。）、お手元のエディタで行ってください。

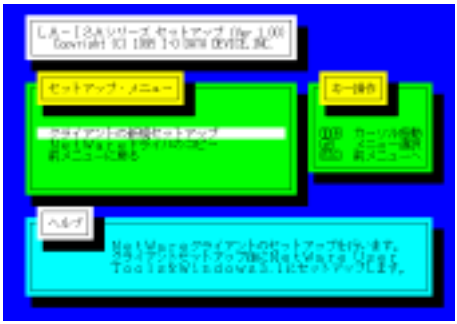
参考

1)サーバへの接続にはネットワークシステム管理者が決めた仕様に伴い、NET.CFGの変更が必要になる場合があります。詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。
2)NetWareに添付されているインストールプログラムを使用する場合、ドライバの読み込み先は **A:\netware\dosodi** と指定してください。

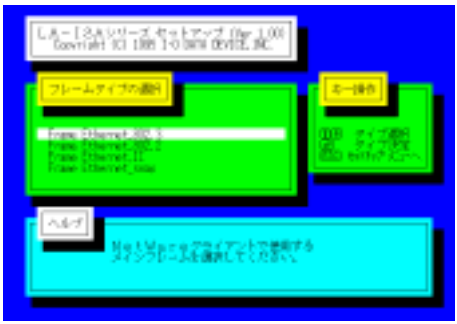
「MS-DOSの環境のみで使用する場合」は以下を、
「Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合」は72ページを参照してください。

MS-DOSの環境のみで使用する場合

1 lasetup.exeを起動して「NetWareクライアントのセットアップ」ー「クライアントの新規セットアップ」を選択し、画面の指示に従ってセットアップを行ってください。



2 「フレームタイプの選択」は、接続するNetWareサーバのタイプに合わせてください。
指定のディレクトリ（デフォルトはPLANT）にNetWareのドライバと起動用バッチファイル［startnet.bat］がインストールされます。



参考
フレームタイプに関する詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。

3 「自動起動文の登録」で「追加を行わない」を選択した場合、autoexec.batに直接起動用のコマンドを記述するか、DOSプロンプトからstartnetと入力してください。
また、「追加を行う」を選択した場合、autoexec.batに
　　@CALL C:\PLANT\STARTNET.BAT　(指定したﾃﾞｨﾚｸﾄﾘがPLANTの場合)
が追加されます。

自動起動文の有無に関わらず、config.sysにはLASTDRIVE=Z、autoexec.batには
PATH=C:\PLANT;%PATH%(指定したﾃﾞｨﾚｸﾄﾘがPLANTの場合)が追加されます。

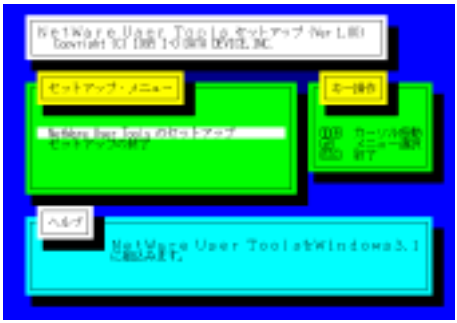
参考
サーバへの接続にはネットワークシステム管理者が決めた仕様に伴い、コマンドオプションが必要な場合があります。詳細はネットワークシステム管理者にご相談ください。

以上でインストールは完了です。セットアップを終了し再起動してください。

注意
DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。

Windows3.1とMS-DOSの環境で使用する場合

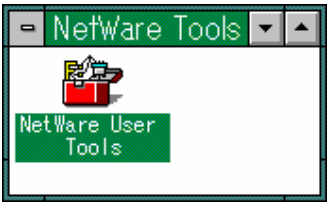
「MS-DOSの環境のみで使用する場合」と同様な作業を行った後、「NetWare User Tools のセットアップ」を選択し、画面の指示に従って作業を行ってください。



参 考

「NetWare User Tools」のみをインストールする場合は、NetWare User Tools 用」ディスクからlawinat.exeを起動してください。

インストールが終了するとWindows3.1の『プログラムマネージャ』に「NetWare Tools」のグループが作られます。



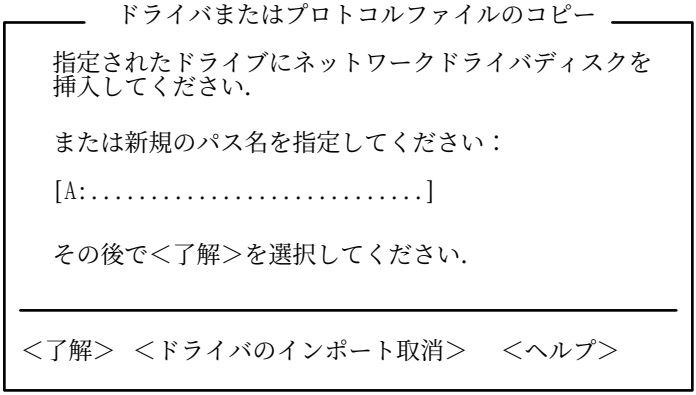
参 照

NetWare User Toolsの使用方法に関してはNetWareの取扱説明書及び NetWare User Toolsのヘルプを参照するか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

4.1.2 Microsoft LAN Manager V2.1xへのセットアップ

LAN Managerのsetup.exeを起動してください。

「表示/変更」－「ﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾊﾞの登録」－「新規設定」－「その他のﾄﾞﾗｲﾊﾞ」を順に選択してください。



「ドライバまたはプロトコルファイルのコピー」画面で、「LA-ISAシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、挿入したドライブ名のみを入力し、＜了解＞を選択してください。

（例：[A:.....]　下線部入力）

次に「I-O DATA LA-ISA Ethernet Adapter」が表示されている事を確認してください。

「ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾛﾄｺﾙ」で任意のプロトコルを選択して「ﾈｯﾄﾜｰｸﾄﾞﾗｲﾊﾞ設定」で「了解」－「保存」でインストールは終了です。



注 意

1) DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。

2) CD-ROMドライブを使用している場合は、autoexec.batの「@REM ======= LANMAN 2.1･･･････」で囲まれた領域を「mscdex.exe」の登録箇所より先に移動してください。

4.1.3 Personal NetWare J1.0へのセットアップ

Install.exeでインストールする際に、「1次ﾈｯﾄﾜｰｸｲﾝﾀｰﾌｪｰｽｶｰﾄﾞ」－「OEM製NetWareｲﾝﾀｰﾌｪｰｽの設定」を選択後、「LA-ISAシリーズサポートソフト」ディスクを入れたドライブとディレクトリを指定します。

例) a:\netware\dosodi

（下線部入力:フロッピィディスクドライブが A ドライブの場合）

後は画面の指示に従ってインストールを継続してください。

詳細はPersonal NetWare J1.0の取扱説明書を参照してください。

注 意

DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。

4.1.4 LANtastic 6.0へのセットアップ

LANtastic 6.0のInstall.exeでインストールする際に「追加機能の選択」－「ｲﾝｽﾄｰﾙ処理の継続」選択後、「NDISｻﾎﾟｰﾄ ﾈｯﾄﾜｰｸｱﾀﾞﾌﾟﾀ」を選択します。「LA-ISAシリーズサポートソフト」ディスクを入れたドライブとディレクトリを指定します。

例) a:\lantast

（下線部入力:フロッピィディスクドライブが A ドライブの場合）

後は画面の指示に従ってインストールを継続してください。

詳細はLANtastic 6.0の取扱説明書を参照してください。

注 意

DOS/Vマシンのマルチコンフィグ機能には対応していません。

4.2 日本語WindowsNT3.5xへのセットアップ

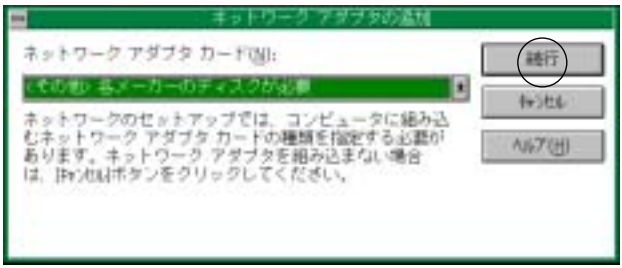
注 意

MS-DOSの起動ディスクを準備し、MS-DOSを起動してください。【2.4 動作確認】(P13)を参照して正常に動作することを確認の上、WindowsNT3.5xを起動します。

2 『メイン』－『コントロールパネル』の「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックし、『ネットワークの設定』画面の「ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｶｰﾄﾞの追加」ボタンをクリックしてください。



3 『ネットワーク アダプタの追加』画面の「ネットワーク アダプタ カード」の項目で「<その他>各メーカーのディスクが必要」を選択し、[続行]ボタンをクリックしてください。



4 『フロッピーディスクの挿入』画面で「LA-ISAシリーズサポートソフト」ディスクをフロッピィディスクドライブに挿入し、フロッピィドライブのパス指定を行います。

例) A:\nt35x　　（下線部入力［Aドライブの場合］）



5 『OEM ｵﾌﾟｼｮﾝの選択』画面で「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」と表示されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。

6 『I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ ｾｯﾄｱｯﾌﾟ』画面でボードの設定にあわせてリソースを設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

7 『コントロールパネル』－『ﾈｯﾄﾜｰｸ』画面でWindowsNT3.5xの取扱説明書に従って各種のネットワーク構成を設定してください。

参考

WindowsNT3.5xの「ﾈｯﾄﾜｰｸ」、「ｻｰﾊﾞ」、「FTPｻｰﾊﾞ」、「ﾌｧｲﾙﾏﾈｰｼﾞｬ」、「ﾕｰｻﾞﾏﾈｰｼﾞｬ」の設定により、WindowsNT3.5x同士の「ピア・ツー・ピア」接続、「NetWareクライアント」接続、「WindowsNT3.5xクライアント」接続などが可能になります。詳細はWindowsNT3.5xの取扱説明書をご覧頂くか、ネットワークシステム管理者にご相談ください。

4.3 日本語WindowsNT4.0へのセットアップ

注 意

MS-DOSの起動ディスクを準備し、MS-DOSを起動してください。【2.4 動作確認】(P13)を参照して正常に動作することを確認してください。
また、【2.4 動作確認】時に設定した「I/O ﾎﾟｰﾄ」及び「割り込み」はWindowsNT4.0への設定時に必要となりますので、必ずメモに取っておいてください。

LA-ISAシリーズを取り付ける前にWindowsNT4.0のネットワークの設定を既に終了している場合はアダプタの追加のみの手順となります。アダプタの追加のみの場合は、網掛けの項目のみをご覧ください。

1 WindowsNT4.0を起動します。

2 『ｽﾀｰﾄ』→『設定』→『ｺﾝﾄﾛｰﾙﾊﾟﾈﾙ』をクリックし、「ﾈｯﾄﾜｰｸ」アイコンをダブルクリックして開きます。別のネットワークカード等がインストールされている場合は、[アダプタ]タブをクリックして、[追加]ボタンをクリックしてください。（ネットワークがインストールされていない場合は、[Windows NT ネットワークがインストールされていません。インストールしますか ?]と表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。）

3 『ﾈｯﾄﾜｰｸｾｯﾄｱｯﾌﾟｳｨｻﾞｰﾄﾞ』画面で、「ﾈｯﾄﾜｰｸに接続」がチェックされている事を確認して、[次へ]ボタンをクリックしてください。



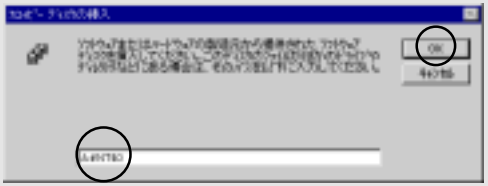
4 **検索の画面が表示されます。[一覧から選択]ボタンをクリックしてください。**



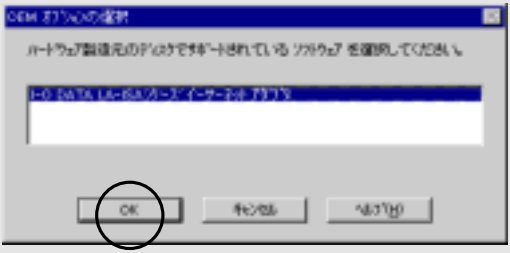
5 **アダプター一覧が表示されます。右下の[ﾃﾞｨｽｸ使用]ボタンをクリックしてください。**



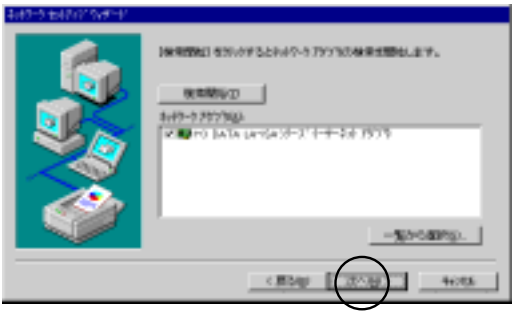
6 **フロッピーディスク挿入の画面が表示されます。フロッピードライブがA:の場合は「A:\NT40」と入力して、[OK]ボタンをクリックしてください。**



7 『OEM ｵﾌﾟｼｮﾝの選択』画面では、「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」をクリックし、[OK]ボタンをクリックしてください。



8 「I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀ」のチェックボックスがチェックされているのを確認し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



9 使用する「ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾌﾟﾛﾄｺﾙ」を指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。

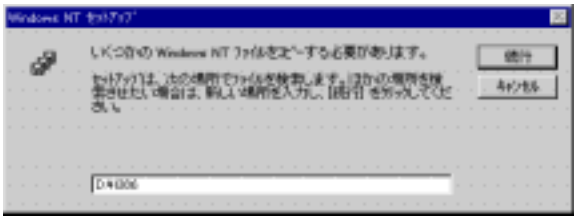


10 使用する「ﾈｯﾄﾜｰｸ ｻｰﾋﾞｽ」を指定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



11 「選択されたﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄとｼｽﾃﾑに必要なﾈｯﾄﾜｰｸｺﾝﾎﾟｰﾈﾝﾄをｲﾝｽﾄｰﾙします。.....」と表示されますので、[次へ]ボタンをクリックし、それぞれのコンポーネントを設定してください。設定の詳細については、WindowsNT4.0の取扱説明書をご覧になるか、またはネットワーク管理者にお尋ねください。

12 「いくつかのWindows NTﾌｧｲﾙをｺﾋﾟｰする必要があります」と表示されます。
WindowsNTのCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。
「D:\i386」(CD-ROMドライブがDドライブの場合)と入力して[OK]ボタンをクリックしてください。



13 リソース設定の画面が表示されます。
ボードの設定に合わせてリソース(IRQなど)を設定し、[OK]ボタンをクリックしてください。

別のネットワークなどがインストールされている状態でLA-ISAシリーズを追加した場合の作業はこれで完了です。他に必要なネットワークの設定を行ったあと、画面の指示にしたがって再起動してください。



14 ネットワークのバインドを設定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



15 「ﾈｯﾄﾜｰｸを起動する準備が整いました。」と表示されますので、[次へ]ボタンをクリックしてください。

16 「ﾄﾞﾒｲﾝ」または「ﾜｰｸｸﾞﾙｰﾌﾟ」を設定し、[次へ]ボタンをクリックしてください。



17 「このｺﾝﾋﾟｭｰﾀにﾈｯﾄﾜｰｸがｲﾝｽﾄｰﾙされました。.....再起動しなければなりません。」と表示されます。[完了]ボタンを押して、再起動してください。

以上でインストールは完了です。

付録1 困った時には

LA-ISAシリーズが異常になる理由は様々です。(ネットワーク回線が接続されていないなど、ユーザーによって容易に改善できる場合もあります。)
この章では、個々の共通のトラブルを解決するヒントを提供します。

● 自己診断中のトラブル

MS-DOS上で動作する lasetup.exeの「LANアダプタの自己診断及び設定」でLA-ISAシリーズの診断とネットワーク回線のチェックが行えます。
インストール時のトラブルの多くは、各種デバイスドライバとのパソコン資源の競合によって発生します。
インストール時の障害を追求するための一番良い方法は、パソコンのCONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの日本語環境のみを使用して起動することです。
MS-DOS6.x以降の場合は、DOSの起動時に [F8] キーを押しながら、パソコンを再起動してください。([Y]キー,[N]キーで組み込むドライバを選択してください。) そうでなければ、日本語環境で起動可能なシステムディスクを作成し、パソコンを再起動してください。

1. 非シールドツイストペア (UTP) 接続で、アダプタ異常という結果になる。
   Lk(リンク)LEDインジケーターは、OFFになる。
   電源を入れた直後から画面に何も表示されない。
2. アダプタルーティングの診断テストは、外部ループバックテストの異常という結果になる。

原因 10BASE-Tのツイストペア接続に異常がある。

対処 RJ-45接続が外れていないか、ケーブルの種類 (クロスケーブルとストレートケーブル) が間違っていないかを調べてください。確認後システムを再起動し、再び診断プログラム(lasetup.exe)を動かしてテストしてください。

1. BNC接続で、アダプタ異常という結果になる。
   Tx(送信)LEDインジケータが不規則に点滅する。
2. アダプタルーティングの診断テストは、外部ループバックテストの異常という結果になる。

原因 10BASE2の同軸ケーブル接続に異常がある。

対処 BNCへの接続が外れていないか、ネットワークセグメントの両方の終端が適切に終端処理（50Ωのターミネータでネットワークセグメントの端末を閉じます。）されているかを調べてください。確認後システムを再起動し、再び診断プログラムを動かしてテストしてください。

アダプタ異常。「LANアダプタの自己診断及び設定」でハードウェア設定やハードウェア診断ができない。

原因 ケーブルの接続が悪い。

対処 RJ-45接続を使用している場合は、接続が緩んでいるまたはケーブルの種類（クロスケーブルとストレートケーブル）が間違っていないかネットワーク回線を調べてください。

原因 LA-ISAシリーズが拡張スロットに正しく取り付けられていない。

対処 LA-ISAシリーズがパソコンの拡張スロットに確実に装着されているか調べてください。

原因 パソコンの拡張スロットに、異常がある。

対処 トラブルが起きているLA-ISAシリーズを別の拡張スロットに取り付けるか、他のパソコンに取り付け、動作テストを行ってください。
もし、これでトラブルが解決される場合は、トラブルが起きているパソコン本体の拡張スロットに異常があることになります。ネットワークシステム管理者またはパソコンの販売店にご相談ください。

LA-ISAシリーズの環境設定の後にパソコンが異常になる。

原因 パソコン環境が競合している。

対処 I/Oポートアドレスと割り込み（IRQ）が他の周辺機器と競合していないかを調べてください。
パソコンで使用しているI/Oポートアドレス範囲がLA-ISAシリーズと重なるならば、LA-ISAシリーズのI/Oポートアドレスを別の設定にしてください。
また、RJ-45接続を使用している場合は、接続の緩みやケーブルの種類（クロスケーブルとストレートケーブル）が間違っていないか回線を調べてください。

● Windows95上でのトラブル

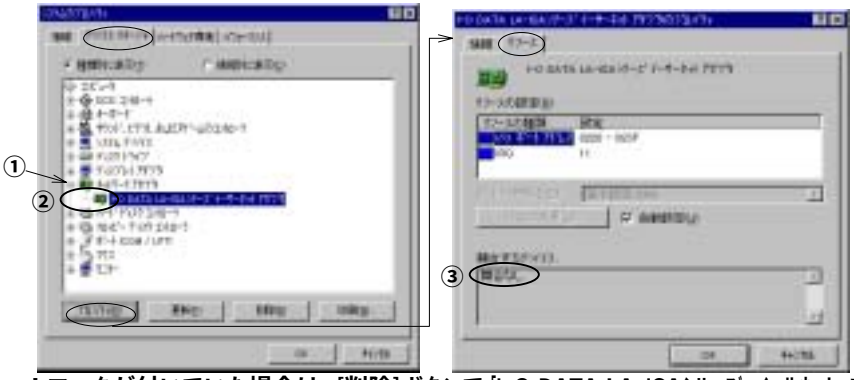
Windows95起動途中などでアダプタが異常のエラーとなる。その他Windows95上でLA-ISAシリーズが正常に動作しない。

原因 LA-ISAシリーズのリソース（「I/O ポートアドレス」,「割り込み」）の設定が間違っている。

対処 以下の手順でリソースの確認及び変更を行ってみてください。

① Windows95起動後、『スタート』→『設定』→『コントロールパネル』をクリックし、「システム」アイコンをダブルクリックします。『システムのプロパティ』画面の「デバイス マネージャ」タブで「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

② 「I-O DATA LA-ISAシリーズ イーサネット アダプタ」が登録（表示）されているのを確認してください。
表示されている「I-O DATA LA-ISAシリーズ イーサネット アダプタ」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。「I-O DATA LA-ISAシリーズ イーサネット アダプタ」の頭に、！マークが付いていないことを確認してください。



！マークが付いていた場合は、[削除]ボタンで「I-O DATA LA-ISAシリーズ イーサネット アダプタ」を一旦削除後、再度「第3章」(P19)を参照してLA-ISAシリーズのドライバをインストールしてみてください。

③ [プロパティ]ボタンをクリックし、『I-O DATA LA-ISAシリーズ イーサネット アダプタのプロパティ』画面の「リソース」で、競合するデバイスがないことを確認してください。
競合している場合は、リソースを変更してみてください。
リソースの変更は、「・リソースの変更」(P86)を参照してください。

！マークも競合するデバイスもない場合は、設定しているリソースが「2.4 動作確認」時に設定しているリソースと異なっている場合があります。
現在のリソースを確認してください。（以下の④及び⑤）

④ 「I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」及び「IRQ」(割り込み)の設定値を確認してください。確認後、メモなどに書き留めておいてください。
[OK]ボタン等で設定を全て終了し、一旦Windows95を終了してください。



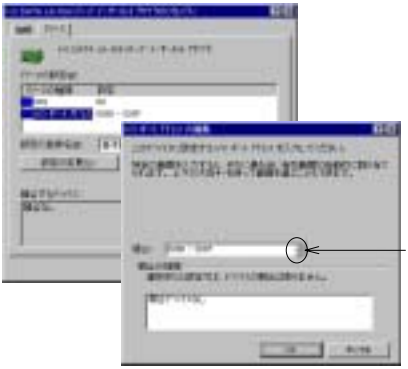
⑤ 次にlasetup.exeでの設定値を確認します。「2.4 動作確認」を参照して、「現在のＬＡＮ－ＩＳＡの設定値」で「I/Oﾎﾟｰﾄ」,「割り込み(IRQ)」を確認します。先ほど④でメモした設定値とあっているか確認してください。
違っている場合は、「手動セットアップ」で設定値を合わせてください。

「現在のＬＡＮ－ＩＳＡの設定値」画面

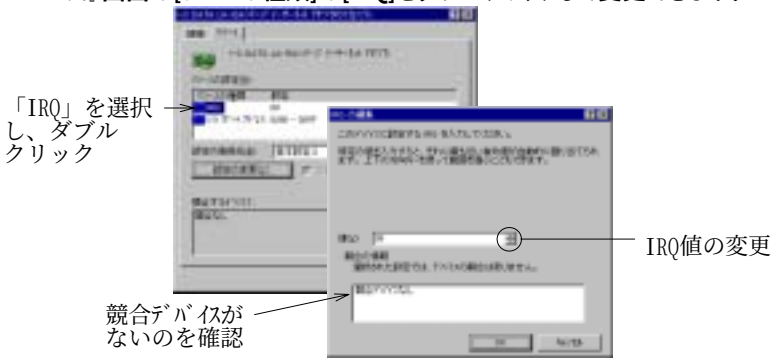


・リソースの変更

1。「I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ」の変更は、『I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の「ﾘｿｰｽ」でﾘｿｰｽの種類]の[I/O ﾎﾟｰﾄｱﾄﾞﾚｽ]をダブルクリックで変更できます。



2.「割り込み(IRQ)」の変更は、『I-O DATA LA-ISAｼﾘｰｽﾞ ｲｰｻﾈｯﾄ ｱﾀﾞﾌﾟﾀのﾌﾟﾛﾊﾟﾃｨ』画面の[ﾘｿｰｽの種類]の[IRQ]をダブルクリックして変更できます。



付録2 ネットワークの仕様及び接続方法

- **10BASE-T**

ハブと非シールドツイストペアケーブルを用い、各ワークステーションを接続します。また、LANアダプタボードとハブ間（ハブとハブ間［デイジーチェーン接続］）の非シールドツイストペアケーブル長は最大100mです。ネットワークシステム全体で接続できるワークステーションの最大数は1024台までです。（IEEE802.3規格）



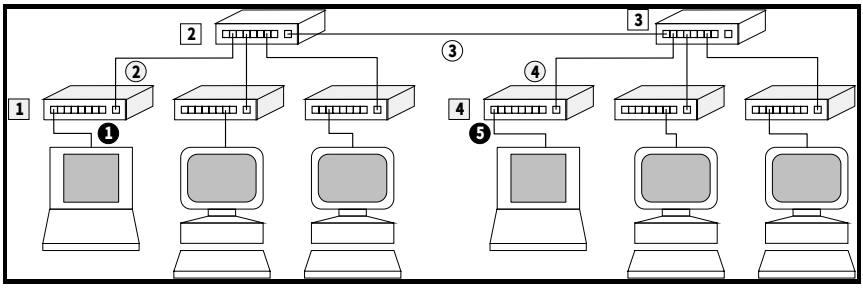
参考

パソコン2台だけのネットワーク（ピア・ツー・ピア型など）を行う場合は、特殊なケーブル（非シールドツイストペアのクロスケーブル）を使用することにより、ハブ無しで直接接続することができます。
（この場合もケーブル長は、最大100mとなります。）

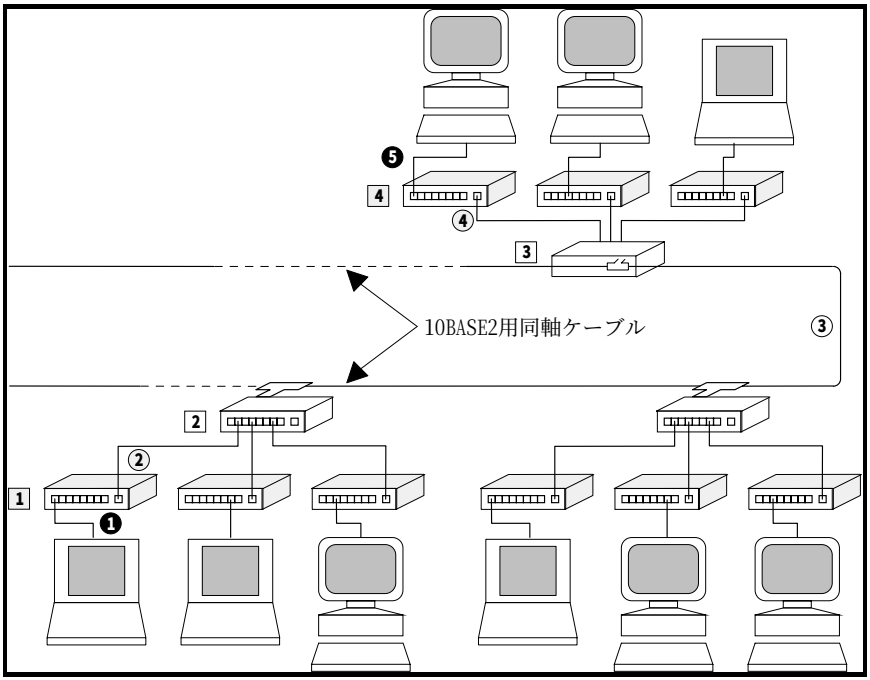
デイジーチェーン接続の概念図

デイジーチェーンの接続方法については、ハブの取扱説明書をご覧ください。

10BASE-Tのみで接続する場合



10BASE-Tと10BASE2を組み合わせた場合



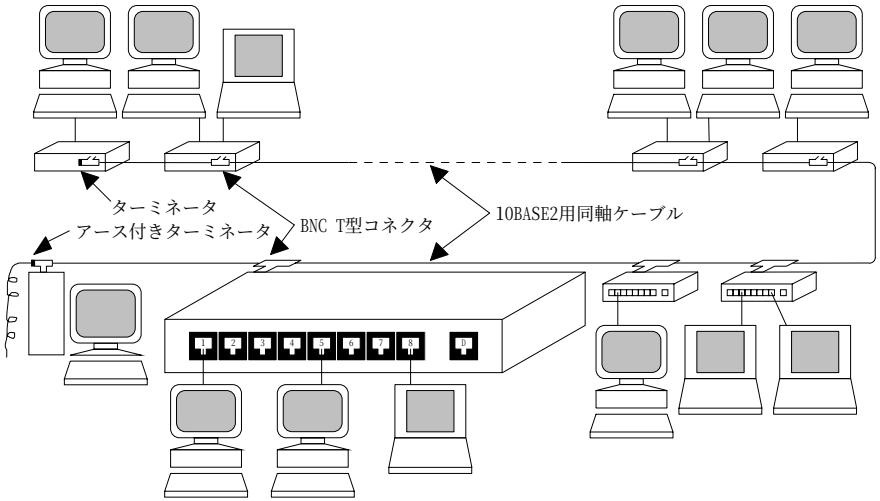
注 意

各ワークステーション（端末のパソコン）の最大距離は、4階層のハブ（5階層のケーブルセグメント）となります。

• 10BASE2

BNC T型コネクタと10BASE2用同軸ケーブルを用い、1セグメント（10BASE2のターミネータで処理された終端間）に最大30台（LANアダプタボードやハブなど）まで接続することができます。1セグメントの長さは、最大185m（10BASE2用同軸ケーブルの長さは、0.5mの整数倍。）です。また、10BASE2用リピータを用いることにより最大5セグメントまで拡張できます。ネットワークシステム全体で接続できるワークステーションの最大数は1024台までです。（IEEE802.3規格）

BNCポートの使用について
弊社製8ポート・スマートハブLA-HB8のBNCポートを使用して他のBNCポート付きハブやLANアダプタボードと接続することができます。
10BASE2用同軸ケーブルで各ハブやLANアダプタボードを接続してください。（同軸ケーブルの終端はターミネータで処理してください。）



注 意

10BASE2で接続する場合は、事前にネットワークシステム管理者に相談の上、ネットワークシステムをシャットダウンしてから行ってください。

付録3 用語解説

AUI (エーユーアイ)

(Attachment Unit Interface)。IEEE 802.3で規格されている15ピンのインターフェイスで、サーバや他のデバイスを10BASE5 Ethernetトランシーバ またはMedia Access Unit(MAU)に接続します。

BNC (ビーエヌシー)

10BASE2用同軸ケーブルを接続するために使用されるコネクタ。半回転ひねってロックする口がある。

Broadcast (ブロードキャスト)

ネットワーク上の全ての端末にメッセージを送るプロセス。

Collision (コリジョン)

2つのパケットが同時にネットワーク上に送出され、相互干渉を起こしてデータが壊れる現象。干渉によるパケットの破壊はボードによって検出され再送信される。

CSMA/CD (シーエスエムエー／シーディ)

(Carrier sense multiple access with collision detection)。
Ethernetで使用されるネットワーク形式。ネットワークのアクセス制御をノード毎に分担することが特徴。

Ethernet（イーサネット）

米国ゼロックス社、ディジタル･イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式。baseband伝達、CSMA/CDアクセス、論理的なバストポロジーと、当初50Ω同軸ケーブルを使用して構成されていた。
後にIEEE 802.3として規格化され、光ファイバー、broadband、非シールドツイストペアやレピータ等、物理層と伝送媒体の追加機能が定義された。

Frame（フレーム）

データに制御情報を加えたビットのグループ。
一般にデータリンク層(OSIモデルの第2層)で定義されるデータの伝送形式。

IEEE 802.3 standard （アイトリプルイー802.3スタンダード）

ローカルエリアネットワークの物理的、電気的特性の標準規格の1つで、IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers)によって規格化された。

Loopback（ループバック）

診断プログラムのテスト項目のひとつ。伝送媒体を通じてテスト機自身に信号を送り、信号受信を確認する方式。

MPX Technology（エムピーエックス　テクノロジー）

Accton社が開発したEthernetテクノロジー。LA-ISAシリーズのインストール、環境設定や、スループット、ハードウェアのチューニングとソフトウェアパフォーマンスを飛躍的に改善し、トラブル回避と障害追求を容易にする独自技術。

NetWare（ネットウェア）

ノベル社のネットワークオペレーティングシステム(異なったプラットホーム間の通信･データ共有を実現するシステム)。
NetWare Core Protocol(NCP)、Internetwork Packet Exchange(IPX)、そしてSequential Packet Exchange(SPX)のプロトコルを使用する。

NIC（ニック）
Network Interface Card

LANアダプタボードの事を指す。

OSI（オーエスアイ）
Open Systems Interconnection

ISO(International Organization for Standardization)によって発表され、CCITT(Comite Consultatif International Telegraphique et Telephoniqueは現在ITU-T[International Telecommunication Unon-Telecommunication standardization sector]となった。)に承認された通信規格の標準化を図るための規格。
OSIモデルは、通信に必要な処理機能を「物理」、「データリンク」、「ネットワーク」、「トランスポート」、「セッション」、「プレゼンテーション」、「アプリケーション」の7つの階層（レイヤー）に体系的にまとめられている。

RJ-45 Connector（アールジェイ45コネクタ）

ツイストペアケーブルを接続するコネクタで最も普及している形式。

TCP/IP（ティシーピー／アイピー）

(Transmission Control Protocol/Internet Protocol)。
Advanced Research Projects Agency(ARPA)によって開発されたプロトコル一式。主にネットワーク層プロトコル(IP)と、トランスポートプロトコル(TCP)を含む。

Traffic（トラフィック）

ネットワークの情報量を指す。

10BASE2（テンベースツー）

直径約5mmの同軸ケーブル（Thin Ethernetケーブル）を使用するEthernetのIEEE仕様。

10BASE5（テンベースファイブ）

直径約12mmの同軸ケーブル（Thick Ethernetケーブル/Yellowケーブル）を使用するEthernetのIEEE仕様。

10BASE-T（テンベースティ）

非シールドのより線を使用するEthernetのIEEE仕様。

非シールドツイストペア
UTP（Unseald Twist Pair）

電気妨害を減少させるため、2本1組で共にねじられている2組の絶縁されたワイヤー構成。

付録4 仕様

ここではパソコンの環境状況、及びLA-ISAシリーズの仕様について記述します。

付4.1 パソコン環境を確認しましょう

「割り込み(IRQ)」、「I/Oポートアドレス」、「DMAチャネル」がパソコン本体や他の拡張ボードと重複していると、パソコン本体が起動できなくなる場合があります。
この場合は、拡張ボードを全て取り外してから各拡張ボードの設定状態を確認し、重複しないように設定し直してください。
(LA-ISAシリーズは、パソコン本体に全ての拡張ボードを取り付け後、再度確認と設定を行う必要があります。「2.4 動作確認」を参照してください。)
また、各拡張ボードを使用する環境によっては、CONFIG.SYSやAUTOEXEC.BAT、Windows上の環境設定ユーティリティで変更しなければならない場合があります。(各拡張ボードの取扱説明書を参照してください。)

・パソコン本体の割り込みとDMA及びI/Oポートアドレス使用状況（一例）

パソコン本体		IRQ	DMA	I/O Port Address(備考)
タイマー		0		
キーボード・コントローラ		1		0060h～0067h
IRQ8～15のカスケード接続用		2		(IRQ9と併用不可能)
RS-232C	(COM4)	3		2E8h～2EFh
	(COM2)			2F8h～2FFh
	(COM3)	4		3E8h～3EFh
	COM1			3F8h～3FFh
(LPT2)		5		278h～27Fh
FDDコントローラ		6	2	3F0h～3F7h
LPT1		7		378h～37Fh
リアルタイムクロック		8		
未使用(IRQ2にリダイレクト接続)		9		(IRQ2と併用不可能)
未使用		10		
未使用		11		
(PS/2マウスポート)		12		0060h～0067h
数値演算コプロセッサ(80287)		13		
プライマリIDEドライブ コントローラ	drive0	14		1F0h～1F7h
	drive1			3F6h～3F7h(FDと共有)
(セカンダリIDEドライブ コントローラ)	drive2	15		170h～177h
	drive3			376h～377h



注 意

パソコン本体の仕様により、異なる場合があります。本体の取扱説明書などを参照して確認してください。

･各種ボードの割り込みレベルとDMA使用状況（一例）

パソコン本体		IRQ	DMA	I/Oポートアドレス
LA-ISAシリーズ(本製品)		3		300h～31Fh
GAシリーズ(VGAモード使用時)				3C0h～3DFh,46E8h
SC-DV/ISA		11		140h～14Fh
Sound Blaster16	Game Port	5	1,5	200h～207h
	SB16			220h～233h
	MIDI			330h～331h
	FM音源			388h～38Bh
Sound Blaster Pro	Game Port	5	1	200h～207h
	SB Pro			220h～233h
	MIDI			330h～331h
	FM音源			388h～389h(～39Fh)
AHA-1520/1522		11		340h～35Fh
AHA-1540/1542		11	5	330h～333h



注 意

使用可能な割り込みレベルやDMAチャネルの数は限られています。このため、拡張ボードを多く使用しようとすると、重複が避けられない場合があります。

この場合は、重複の避けられない拡張ボードと併用できません。それらのボードを必要に応じて使い分けてください。また、I/Oポートアドレスの使用状況は、各拡張ボードの取扱説明書を参照して確認してください。

付4.2 ハードウェア仕様

LANアダプタボード	LA/T-ISA	LA2/T-ISA
LANコネクタ	RJ-45	RJ-45,BNC
メディアタイプ	10BASE-T	10BASE-T,10BASE2
伝送方法	Baseband方式	
トポロジ	Star/Bus	
アクセス方法	CSMA/CD	
LEDインジケータ	Link(LK) Transmit(Tx) Receive(Rx)	
転送レート	10Mbps	
IRQ (割り込み)	2,3,4,5,10,11,12,15	
I/Oポートアドレス	200h～3E0h(20h単位)	
使用温度範囲	0°C～55°C (パソコンの動作する温度範囲であること)	
使用湿度範囲	10%～90% (結露しないこと。パソコンの動作する湿度範囲であること)	
消費電流(MAX)	UTP:+5V/120mA	UTP:+5V/120mA BNC:+5V/400mA
サイズ	163.9mm x 102.6mm	

PLANTコールセンターへのお問い合わせ

弊社PLANTコールセンターへのお問い合わせはユーザー登録された方に限ります。

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所･氏名･郵便番号･連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、サポートソフトウェアディスクのシリアルNo.
   (フロッピィディスクに貼ったVerシールに印刷されています。)
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOS(NOS)とアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

■郵便

住所　〒101 東京都千代田区外神田1-15-16 秋葉原ラジオ会館7F
株式会社アイ・オー・データ機器
PLANTコールセンター「LA-ISAシリーズ」係　宛

■電話

電話番号　東京　03-5256-2010

受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

■オンライン (パソコン通信)

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	http://www.iodata.co.jp/
IOS-NET	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ機器ﾌｫｰﾗﾑのサポートセンター
NIFTY-Serve	ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)サポート会議室

IOS-NETのアクセスポイントや概要については「サポートソフトのバージョンアップ」をご覧ください。

LAN製品に関するお問い合わせはPLANTコールセンターのみで行っています。予めご了承ください。

サポートソフトのバージョンアップ

入手方法は以下の通りです。なお、当サービスはユーザー登録された方のみが対象です。

■IOS－NET

アクセスポイント

東京 03-5295-6570　**大阪** 06-368-2291

金沢 0762-34-9811　**VTX(*)** 166-77100

『アイ・オー・データ機器フォーラム』→『サポートソフトライブラリ』を選び、必要なソフトや差分ファイルをダウンロードしてください。

(*)VTXのお申し込みと、VTXに対応した通信ソフトが必要です。VTXに関するお問い合わせは最寄りのNTT(0120-443322)へどうぞ。

IOS-NET概要

最大通信速度	33600bps		
通信手順	N81XN (ﾊﾟﾘﾃｨﾋﾞｯﾄなし,8bit DATA,ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ1, X ON,ｼﾌﾄ制御なし)		
使用文字コード	シフトJIS	制限時間	30分
GUEST ID	GUEST	パスワード	なし

■その他のパソコン通信

ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ　http://www.iodata.co.jp/ →「ｻﾎﾟｰﾄｿﾌﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘ」

NIFTY-Serve　ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀｽﾃｰｼｮﾝ(SIODATA)のﾗｲﾌﾞﾗﾘ9(LIB 9)

■バージョンアップ窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。(送料及び手数料はお客様負担)

住所　〒920 石川県金沢市桜田町24街区1
株式会社アイ・オー・データ機器
「LA-ISAシリーズ」　バージョンアップ係　宛

電話番号　0762-63-7070

受付時間　9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

ご注意

- パソコン通信によるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。
- 添付ソフトウェアの中には、当サービス対象外のソフトウェアもあります。
- このサービスへのご質問は、弊社PLANTコールセンターやバージョンアップ窓口ではお受けできません。

修理について

弊社製品の修理については、以下の事項をご確認のうえ、販売店もしくは弊社PLANTコールセンターへご依頼ください。

- **原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。**

- **修理品にはご使用の環境や現在の状態（『PLANTコールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。**

- **保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。**
  ◇保証書がない場合
  ◇保証書の所定事項が未記入の場合
  ◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法による破損、故障の場合
  ◇落雷などの事故による破損の場合
  ◇本製品を改造した場合

- **保証期間後は有償で修理いたします。**
  製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

- **修理品送付先**

住所 **〒920 石川県金沢市桜田町15街区7 ｱｲ･ｵｰ･ﾃﾞｰﾀ第2ビル**
株式会社アイ・オー・データ機器
「LA-ISAシリーズ」 修理係 宛

※修理品を送付される場合は、発送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱･梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

LA-ISAシリーズ 取扱説明書
1997.Mar.04 E-03A
発 行　株式会社アイ･オー･データ機器
〒920 石川県金沢市桜田町24街区1

© 1995-1997 I-O DATA DEVICE,INC. All rights reserved.
本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにVerシールをお貼りください

Verシール